3-070-343-**02**(1)

CD/DVD プレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DVP-F21

© 2001 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

7 ～ 9 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。3 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、AC パワーアダプターや電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや AC パワーアダプター、電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

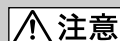
❶ 電源を切る
❷ 電源プラグをコンセントから抜く
❸ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指挟み

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
  （チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、本機を動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

AC パワーアダプターについて

本機には、付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をご使用ください。

極性統一形プラグ

上記以外のACパワーアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし数時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

特殊な形状のディスクについて

本機に特殊な形状のディスクを入れないでください。取り出せなくなるなど、故障の原因になることがあります。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスクについて

市販のレンズ用クリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意

ディスクのメニューや本機のメニュー画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

目次

警告・注意

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

禁止

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。

➡万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、ACパワーアダプターや電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

指定以外の AC パワーアダプターを使わない

破裂や液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因となります。

本機を壁にかけて使うときは

落下による大けがや破損の原因になるため、次の事項を必ずお守りください。

- 取り付け時には、壁面に適したネジを２本使用し、十分な強度のある壁面に取りつける。
  垂直で平坦な壁の補強材の入っている部分に取り付けてください。壁の強度やネジについてご不明な点は、ネジの販売店や工事店にご相談ください。
- 傾けて取り付けない。
- 高い位置に取り付けない。
- 本機によりかからない。ぶら下がらない。
- 本機に荷重をかけない。
- 壁に取り付けた状態でコード類を引っ張らない
- コード類に手や足をひっかけないよう注意する。
- 操作する際やディスクを出し入れする際、本機に無理な力をかけない。
- 掃除やお手入れの際、本機に手を置いたり、力をかけない。

警告・注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

⚠注意

ぬれた手で AC パワーアダプターや電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

風通しの悪い所に置かない

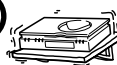
布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

➡呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

ディスクスロットの前に物を置かない

ディスクが出る際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。

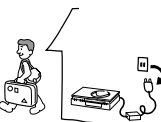
幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

コード類は正しく配置する

AC パワーアダプターや電源コード、AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため AC パワーアダプターや電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、AC パワーアダプターや電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

必ず次の処理をする

➡液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

➡液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

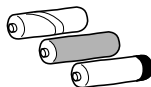
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

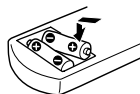
⚠注意

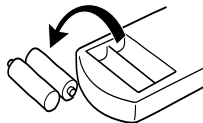
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡電池の品番を確かめ、お使いください。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味	記号	意味
DVD	DVD ビデオで使える機能	CD	音楽用 CD で使える機能
VIDEO CD	ビデオ CD で使える機能		知っていると便利な情報

再生できるディスクについて

ディスクの種類	
DVD ビデオ	DVD VIDEO
ビデオ CD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO VIDEO CD
音楽用 CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO

"DVD VIDEO" ロゴは商標です。

地域番号（リージョンコード）について

DVD のパッケージには地域番号（75 ページ）が表示されています。

地域番号に「ALL」または「2」が含まれているときは、本機で再生可能です。

再生できないディスクについて

本機では次のディスクなどを再生することはできません。

- CD-ROM（PHOTO CD を含む）
- CD-R や CD-RW（ただし、音楽やビデオ CD 方式で記録された CD-R や CD-RW は再生できます）
- CD-EXTRA のデータ部分
- DVD-ROM
- DVD オーディオ
- ビデオレコーディングフォーマット（VR モード）で記録された DVD-RW
- スーパーオーディオ CD の HD（ハイデンシティ）レイヤー

次のようなディスクも再生できません。

- 本機では再生できない地域番号（リージョンコード）の DVD（75 ページ）
- NTSC 以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスク
  （本機が NTSC カラーテレビ方式対応のため）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした痕のあるディスク

ご注意

CD-R や CD-RW の中には、記録品質やディスクの物理的な状態、または記録装置の特質によって本機では再生できないものがあります。
また、ディスクが最終段階で正しく処理されていないと再生できないことがあります。詳しくは、記録装置の説明書をご覧ください。

DVD、ビデオ CD 再生操作について

DVD、ビデオ CD はソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

著作権について

本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社およびその他の著作権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用およびその他の一部の観賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 再生面に手を触れないように持ちます。

- 本体の ≜ ボタンを押してディスクを取り出したあとは、ディスクをそのまま放置せず、本体から抜いておいてください。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。
- ディスクの縁から接着剤がはみ出しているディスクは、本機に入れる前に、ペンや鉛筆の側面でディスクの縁を軽くこすり、はみ出した接着剤を伸ばしてください。このとき、ディスクの再生面を触らないように注意してください。接着剤のべとつきが少なくなったら、ディスクを入れてください。
- 縁がギザギザしているディスクは、ペンや鉛筆の側面でディスクの縁をこすり、ギザギザをなくしてください。縁にギザギザがあるディスクを使うと、正しく挿入されないことや、プラスチックの破片がディスクの再生面に付着し、音とびの原因となることがあります。

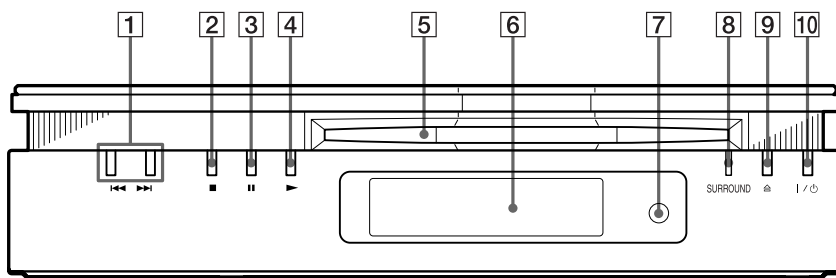
お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。

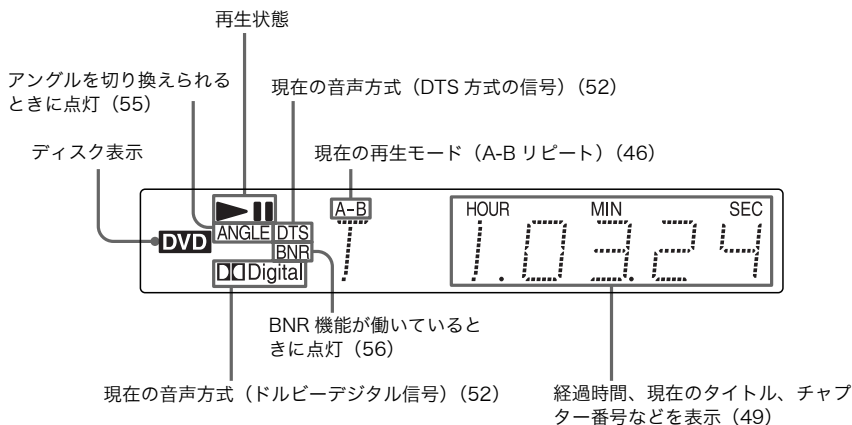
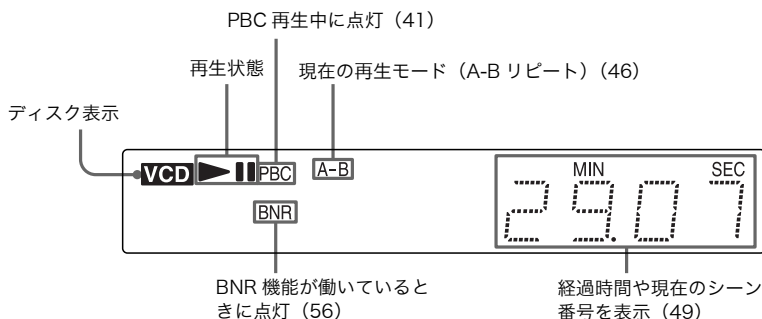
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

各部のなまえ

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体前面

1 ⏮/⏭（前 / 次）ボタン（39）
2 ■（停止）ボタン（38）
3 ❚❚（一時停止）ボタン（39）（62）
4 ►（再生）ボタン（38）
5 ディスクスロット（38）
6 表示窓（13）
7 🅁（リモコン受光部）（18）
8 SURROUND（サラウンド）ランプ（53）
9 ⏏（取り出し）ボタン（38）
10 I/⏻（電源）ボタン / ランプ（38）

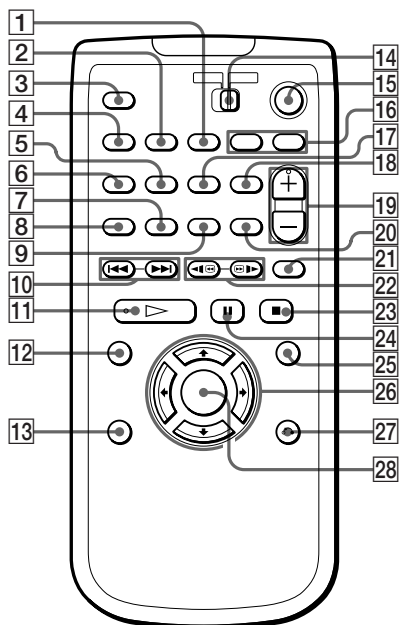
本体の表示窓

DVD 再生中

ビデオ CD の PBC 再生中

CD ／ビデオ CD（PBC 再生中以外）再生中

次のページへつづく ➡

本体側面

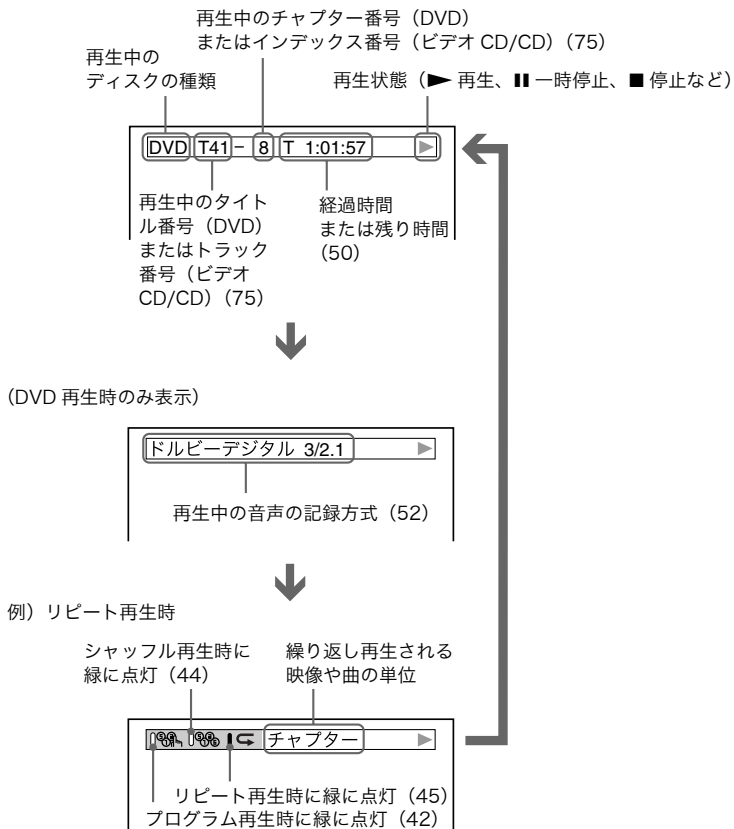
1 DC IN 10.5V 端子（20）
2 AUDIO OUT　L/R（音声出力）端子（20）（25）（26）（28）
3 DIGITAL OUT (OPTICAL)（音声デジタル出力（光））端子（26）（28）（30）
4 VIDEO OUT（映像出力）端子（20）（22）
5 S-VIDEO OUT（S 映像出力）端子（22）
6 D1 VIDEO OUT（D1 映像出力）端子（22）

リモコン

1 サーチモードボタン（48）
2 BNR（ブロックノイズリダクション）ボタン（56）
3 時間／テキストボタン（49）
4 サラウンドボタン（53）
5 アングルボタン（55）
6 音声ボタン（52）
7 プログラムボタン（42）
8 シャッフルボタン（44）
9 くり返しボタン（45）
10 ⏮ 前 /⏭ 次ボタン（39）
11 ▷ 再生ボタン（38）
12 トップメニューボタン（40）
13 画面表示ボタン（16）
14 TV/DVD スイッチ（63）
15 電源ボタン（38）
16 テレビ操作ボタン（63）
17 字幕ボタン（55）
18 クリアボタン（44）
19 音量 +/– ボタン（63）
20 A - B ボタン（46）
21 リプレイボタン（39）
22 ◀❙⏪ / ⏩❙▶ スキャン / スローボタン（47）
23 ■ 停止ボタン（38）
24 ❚❚ 一時停止ボタン（39）
25 メニューボタン（41）
26 ← / ↑ / ↓ / → ボタン（40）
27 ↶ リターンボタン（42）
28 決定ボタン（34）

画面の見かた（ステイタス表示 / モード設定表示 / コントロールメニュー）

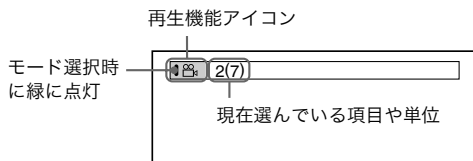
ここでは、本機で使用する 3 種類の画面表示（ステイタス表示、モード設定表示、コントロールメニュー）について説明します。

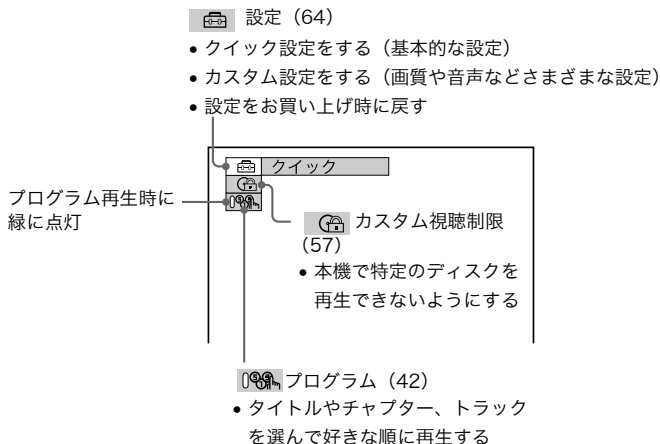
ステイタス表示

ディスクの再生状態を表示します。
再生中に画面表示ボタンを繰り返し押すと、次のように表示が切り換わります。
詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

*A-B リピート設定時は表示が異なります。

モード設定表示

リモコンのボタンを押して、いろいろな再生機能を使うときに表示されます。

例）リモコンのアングルボタンを押したとき

コントロールメニュー

停止中に画面表示ボタンを押すと、表示されます。
詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

はじめに

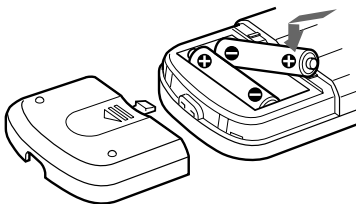
ここでは、テレビにつないでディスクを再生するまでの、最低限必要な接続や設定、操作について説明します。本機の性能を充分にお楽しみになるには「接続と準備」（22 ページ ）以降をご覧ください。

手順 1：付属品を確認する

次の付属品がそろっているかを確認してください。
- 映像音声コード（ピンプラグ× 3⟷ ピンプラグ× 3）（1）
- リモコン RMT-D137J（1）
- 単 3 形乾電池（R6）（2）
- AC パワーアダプター AC-F21（1）
- 電源コード（1）
- ジャックカバー付き縦置きスタンド（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

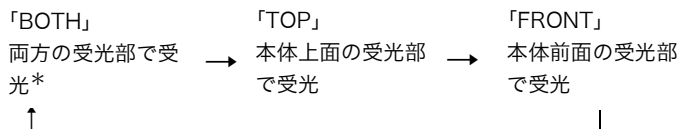
付属品がそろっていないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

手順 2：リモコンに電池を入れる

⊕ と ⊖ の向きを合わせて、単 3 形乾電池（R6、付属）2 個を入れてください。
本機を操作するときは、本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。

リモコンで操作できないときは

本機は、本体前面と上面の２ヵ所にリモコン受光部があります（12、21 ページ）。
リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たると、リモコンがききにくくなります。このようなときは、電源が入っている状態で次の操作を繰り返して、リモコンがきく受光部に切り換えてください。

ディスクが入っていない状態で、本体の ■ を押しながら、I◀◀ を２秒以上押す。
受光部の切り換えにともない、本体前面の表示が次のように変わります。

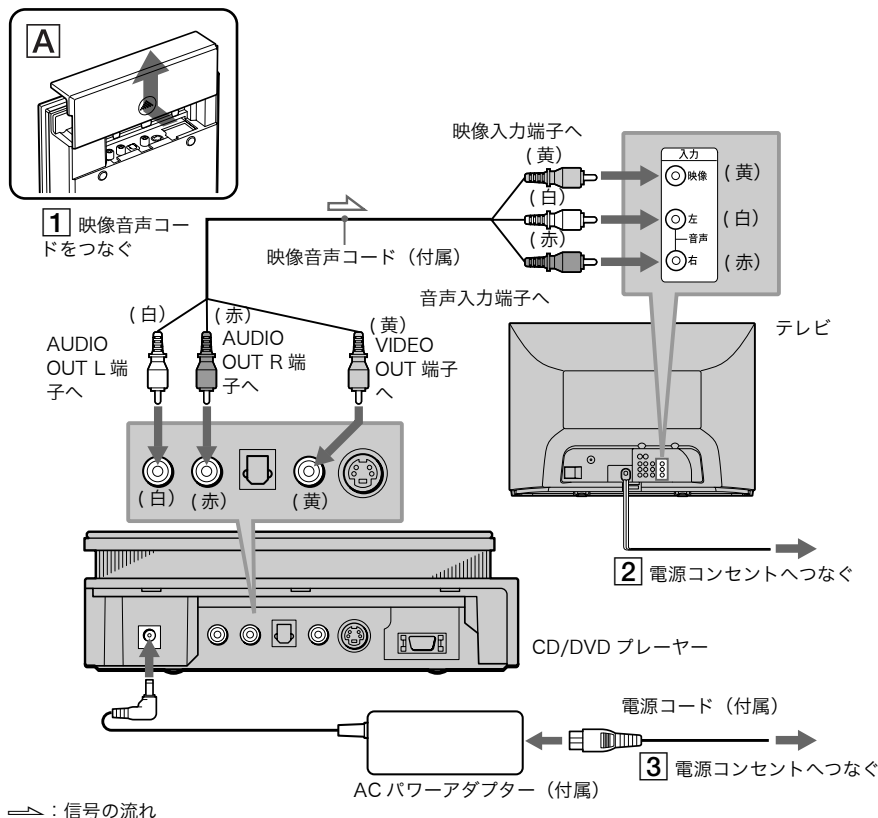
「BOTH」両方の受光部で受光＊ → 「TOP」本体上面の受光部で受光 → 「FRONT」本体前面の受光部で受光 →（「BOTH」に戻る）

＊お買い上げ時の設定

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。
  次のことを必ず守ってください。
  —新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  —乾電池は充電しないでください。
  —長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  —液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

次のページへつづく ➡

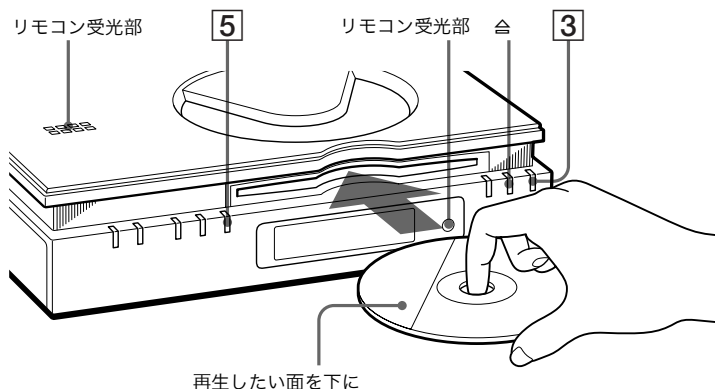
手順 3：テレビとつなぐ

A 図のように本体からジャックカバーをはずし、1 ～ 3 の順で、付属の映像音声コードや電源コードをつなぎます。電源コードは最後につないでください。

■ **従来の 4:3 画面テレビとつなぐとき**

再生するディスクによっては、画像がご希望の形に表示されないことがあります。表示画像を切り換えるには 66 ページをご覧ください。

手順４：ディスクを再生する

1 テレビの電源を入れる。

2 テレビの入力を本機をつないだ入力（「ビデオ」など）に切り換える。

3 I/⏻（電源）ボタンを押す。

4 ディスクを入れる。
再生したい面を下にして入れます。

5 ► を押す。
再生が始まります。

手順５の後に

ディスクによっては、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。そのときは表示されたメニュー画面（選択画面）にしたがって、操作をして再生します。DVD（40 ページ）ビデオCD（41 ページ）

再生を止めるには

■ を押す。

ディスクを取り出すには

本体の ≙ を押す。
ディスクは本体から抜いておきます。

電源を切るには

本体の I/⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押します。本機はスタンバイモードになり、I/⏻（電源）ボタンが赤く点灯します。

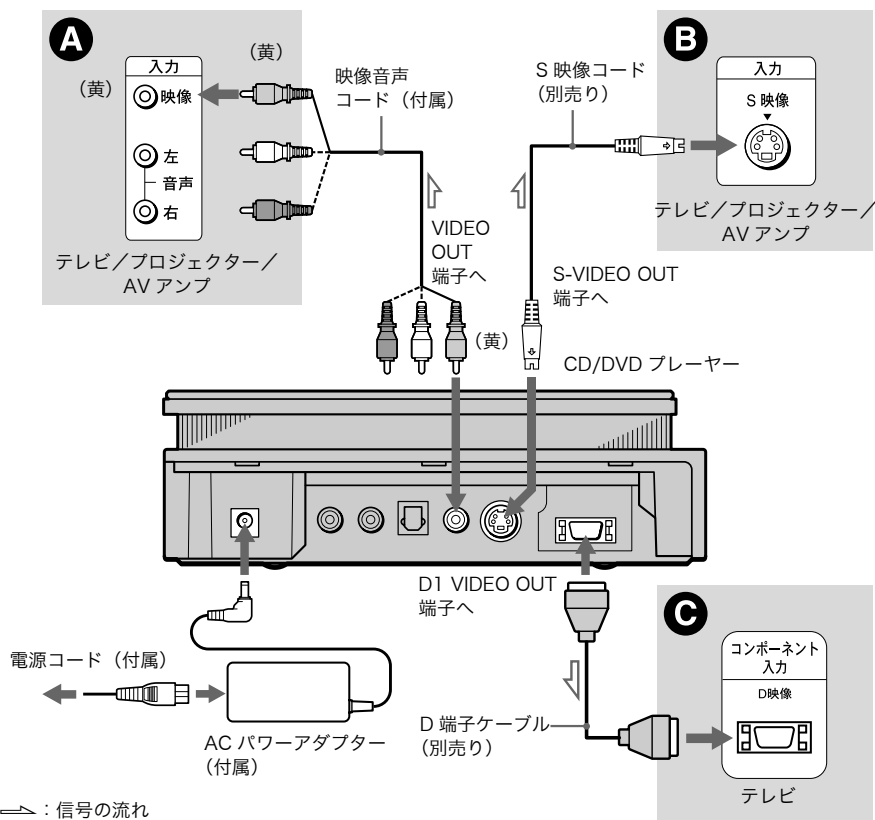
接続と準備について

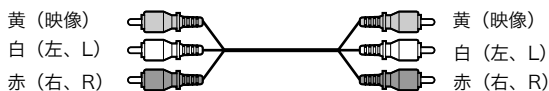
手順 **1** ～**5** にしたがって、接続とクイック設定をしてください。
機器の電源は、接続する前に必ず切ってください。また、付属品を確認し、リモコンに電池を入れ（18 ページ）、本体のジャックカバーははずしておきます。

ご注意

- ノイズや雑音の原因となるので、プラグは端子にしっかりと差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

手順 1：映像コードをつなぐ

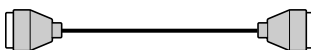
CD/DVD プレーヤーとテレビやモニター、プロジェクター、AV アンプなどを映像コードでつなぎます。お手持ちの機器の入力端子によって、Ⓐ～Ⓒ の３種類のつなぎかたから１つ選んで、接続します。

Ⓐ 映像入力端子のある機器とつなぐ

映像音声コード（付属）の黄プラグを、黄（映像）端子につなぎます。標準的な映像が楽しめます。

赤プラグと白プラグは音声コードをつなぐとき（24 ページ）に使います。

Ⓑ S 映像入力端子のある機器とつなぐ

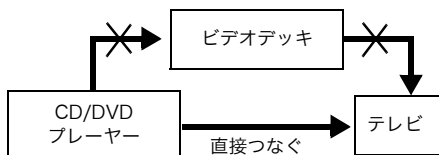
S 映像コード（別売り）を使ってつなぎます。よりきれいな映像が楽しめます。

Ⓒ D 映像入力端子のあるテレビとつなぐ

D 端子ケーブル（別売り）を使ってつなぎます。ケーブル 1 本で簡単にコンポーネント映像で接続でき、映像本来の色を忠実に再現します。

ご注意

- ハイビジョン専用コンポーネントビデオ入力（Y/PB/PR）には対応していません。
- 本機とビデオデッキを接続しないでください。ビデオデッキを経由して本機の映像をテレビに映すと、画像が乱れることがあります。

接続と準備

次のページへつづく →

手順 2：音声コードをつなぐ

お手持ちの機器に応じた接続方法を選んで、音声コードをつないでください。どのような機器と接続して音声を出力するかによって、得られるサラウンド効果は異なります。

接続方法を選ぶ

A ～ D のつなぎかたから 1 つを選んでください。

接続	接続する機器
A (25 ページ)	テレビ（ステレオ）
B (26 ページ)	ステレオアンプ （音声入力端子が L、R のみ。または、デジタル入力端子付） • 2 台のスピーカー （フロント L、R）
B (26 ページ)	MD デッキ /DAT デッキ
C (28 ページ)	ドルビー* サラウンド（プロロジック）デコーダー付 AV アンプ （音声入力端子が L、R のみ。または、デジタル入力端子付） • 3 台のスピーカー （フロント L、R、リア（モノラル）） • 6 台のスピーカー （フロント L、R、センター、リア L、R、サブウーファー）
D (30 ページ)	ドルビーデジタルまたは DTS** デコーダー付 AV アンプ（デジタル入力端子付） • 6 台のスピーカー （フロント L、R、センター、リア L、R、サブウーファー）

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
非公開機密著作物。著作権 1992-1997 年ドルビーラボラトリーズ。不許複製

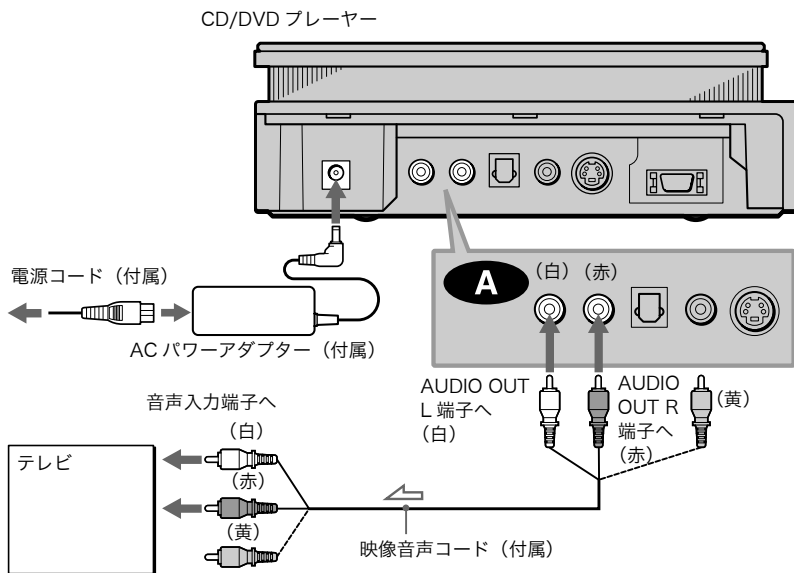
** DTS は Digital Theater Systems, Inc. の商標です。

A テレビとつなぐ

テレビのスピーカーから音を出すときの接続です。

■ **この接続でおすすめのサラウンド効果**

- TVS ダイナミック（53 ページ）
- TVS ワイド（53 ページ）

接続と準備

：信号の流れ

映像音声コードの黄プラグは、映像コードをつなぐとき (22 ページ) に使います。

次のページへつづく ➡

B ステレオアンプと 2 台のスピーカーにつなぐ / MD デッキ、DAT デッキとつなぐ

ステレオアンプにつないだ 2 台のスピーカー（フロント L、R）から音を出すときの接続です。
ステレオアンプの音声入力端子が L、R のみのときは B-1 でつなぎます。デジタル入力端子もついているときは B-2 でつなぎます。
MD デッキや DAT デッキとつなぐときは、B-2 でつなぎます。アンプを経由せず、直接本機と MD デッキや DAT デッキをつなぐこともできます。

■ **B-1 接続でおすすめのサラウンド効果**

- TVS スタンダード (53 ページ)

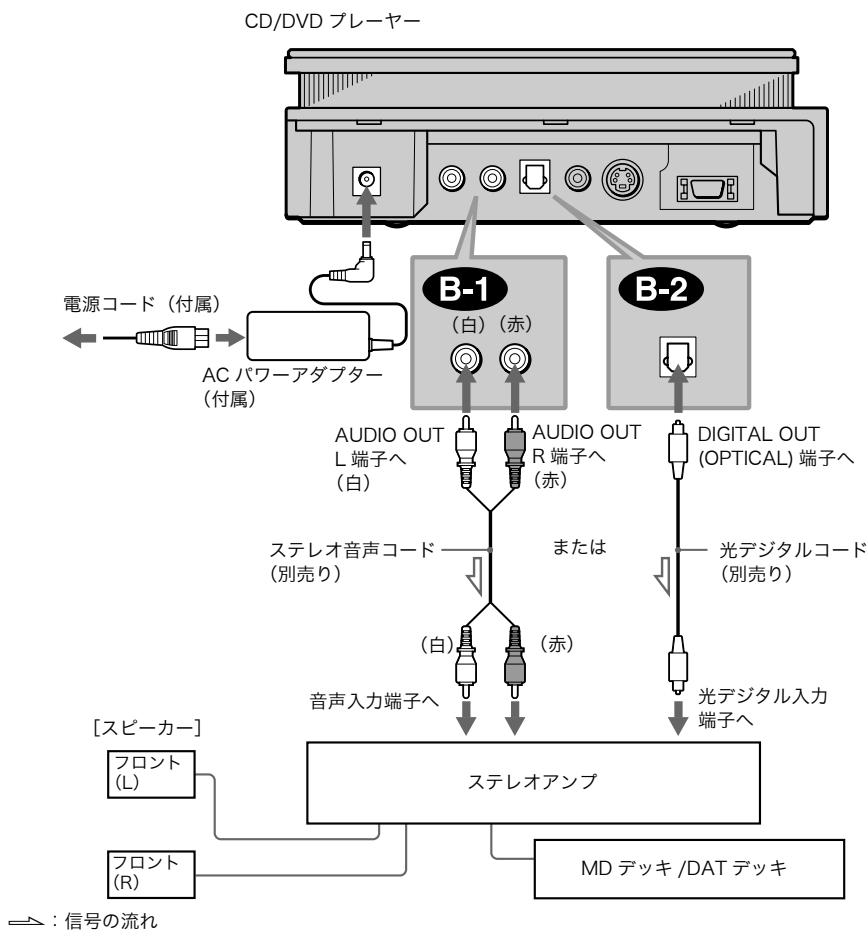
B-1 では、音声コードのかわりに、映像音声コード（付属）を使ってつなぐこともできます。

十分な音声効果を楽しむために、リスニングポジションがスピーカーの間に位置するようにスピーカーを設置してください。

ご注意

B-2 でつないでディスク再生時に「TVS」を選択すると音が出ません。

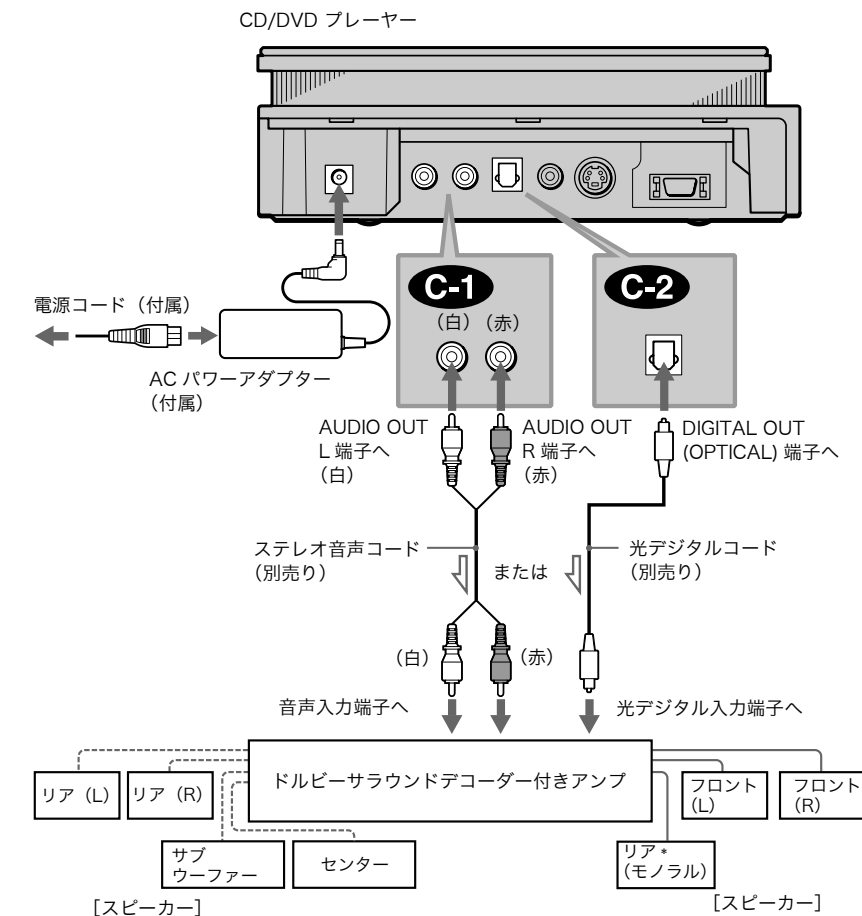
CD/DVD プレーヤー
電源コード（付属）
AC パワーアダプター
（付属）
B-1
（白）（赤）
B-2
AUDIO OUT
L 端子へ
（白）
AUDIO OUT
R 端子へ
（赤）
DIGITAL OUT
(OPTICAL) 端子へ
ステレオ音声コード
（別売り）
または
光デジタルコード
（別売り）
（白）
（赤）
音声入力端子へ
光デジタル入力
端子へ
［スピーカー］
フロント
(L)
フロント
(R)
ステレオアンプ
MD デッキ /DAT デッキ
：信号の流れ

次のページへつづく ➡

C ドルビーサラウンド（プロロジック）デコーダー付 AV アンプと 3 ～ 6 台のスピーカーにつなぐ

この接続で楽しめるサラウンドは、アンプのドルビーサラウンド（プロロジック）機能を使ったサラウンド効果です。ドルビーデジタルまたは DTS デコーダー付 AV アンプをお持ちの場合は 30 ページをご覧ください。
ドルビーサラウンド音声、またはマルチチャンネル音声（ドルビーデジタル）を再生するときに、サラウンド効果が得られます。
3 台のスピーカー（フロント L、R、リア（モノラル））でもサラウンドをお楽しみいただけます。アンプに応じて 6 台のスピーカー（フロント L、R、センター、リア L、R、サブウーファー）とつなげば、より豊かな音場を体感できます。
アンプの音声入力端子が、L、R のみのときは C-1 でつなぎます。デジタル入力端子がついているときは C-2 でつなぎます。

■ この接続でおすすめのサラウンド効果

- アンプによるドルビーサラウンド（プロロジック）(68 ページ)

スピーカーの配置については、つなぐ機器の取扱説明書をご覧ください。

＊ 6 台のスピーカーをつなぐときは、リア（モノラル）はつなぎません。

次のページへつづく ➡

D ドルビーデジタルまたは DTS デコーダー付 AV アンプ（デジタル入力端子付）と 6 台のスピーカーにつなぐ

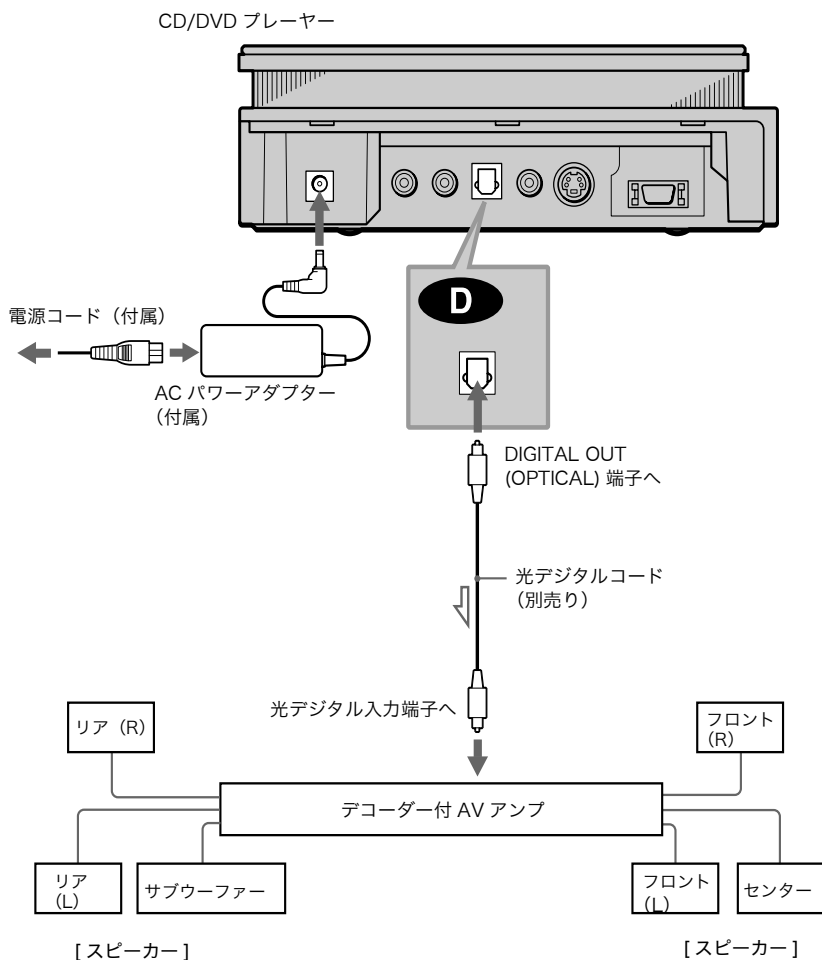
この接続で楽しめるサラウンドは、アンプのドルビーデジタルまたは DTS デコーダー機能を使った音声効果です。
本機のサラウンド効果は、お楽しみいただけません。

■ この接続でおすすめのサラウンド効果

- アンプによる 5.1ch ドルビーデジタル音声（70 ページ）
- アンプによる 5.1ch DTS 音声（70 ページ）

スピーカーの配置についてはつなぐ機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

この接続をしたときは、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にします（34 ページ）。DTS デコーダー付 AV アンプをつないだときは、「DTS」を「入」にします（34 ページ）。

CD/DVD プレーヤー
D
電源コード（付属）
AC パワーアダプター
（付属）
DIGITAL OUT
(OPTICAL) 端子へ
光デジタルコード
（別売り）
光デジタル入力端子へ
リア（R）
フロント
(R)
デコーダー付 AV アンプ
リア
(L)
サブウーファー
フロント
(L)
センター
[スピーカー]
[スピーカー]
：信号の流れ

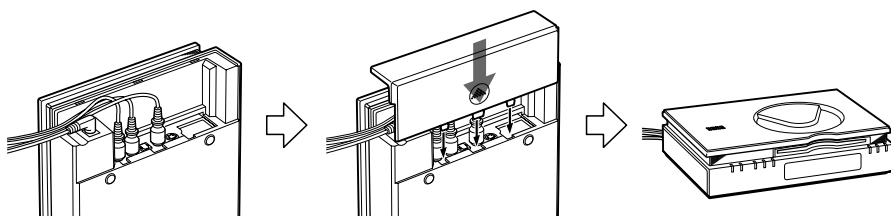
手順3：ジャックカバーを取り付ける

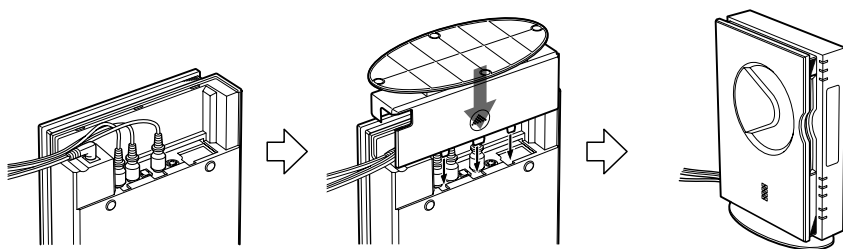
本機は、横置きばかりでなく、縦に置いたり壁に取り付けたりしてお使いいただけます。

ご注意

- ジャックカバーを取り付けるときは、接続コードを挟み込まないように気をつけてください。
- 市販の接続コードをお使いの場合は、コードの太さや硬さ、プラグの大きさが、付属のコードと同等のものをお使いください。コードが太すぎたり、硬すぎたり、またプラグが大きすぎたりすると、ジャックカバーがきちんと閉まらない恐れがあります。

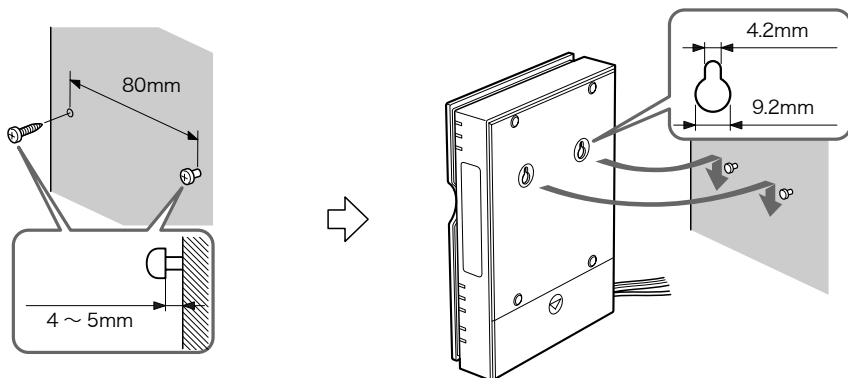
横置きの場合

接続コードをまとめて、本機の横に出します。接続コードを挟み込まないようにして、ジャックカバーをしっかりと取り付けます。

縦置きの場合

接続コードをまとめて、本機の横に出します。接続コードを挟み込まないようにして、ジャックカバー付き縦置きスタンドをしっかりと取り付けます。

ご注意

- 横置きにするときは、スタンドを取り外してください。
- 本機を移動するときは、プレーヤー本体を持ってください。スタンドを持つと、スタンドが破損することがあります。
- スタンドを取り付けずに、プレーヤー本体を縦に置かないでください。プレーヤー本体が安定しないため、倒れることがあります。

壁かけの場合

横置きの場合と同様にジャックカバーを取り付けます。
市販のネジを、壁の同じ高さに 80mm 離して取り付けます。ネジが壁から 4 ～ 5mm 出ているようにします。本機裏面の壁かけ用のくぼみに貼ってあるシールをはがして、本機をネジにかけ、壁にぴったり押し付けます。

ご注意

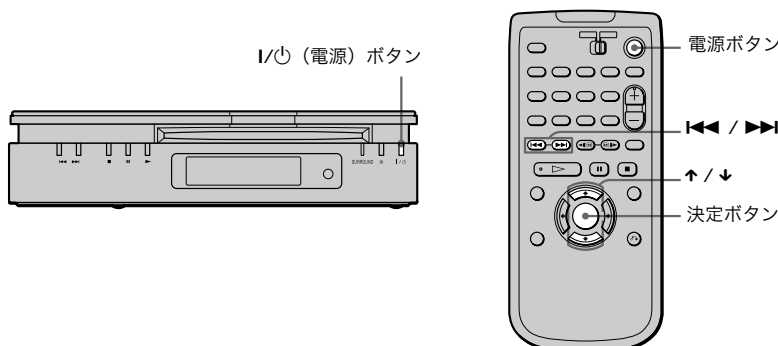
- 壁の材質や強度に合わせたネジを使用してください。
- 垂直で平坦な壁の補強材の入っている部分に取り付けてください。
  強度の弱い壁や、垂直・平坦ではない壁には取り付けないでください。
- 壁の材質やネジについては、ネジの販売店や工事店にご相談ください。
- 壁に取り付けて長時間使用したときは、壁の材質によっては、本機の放熱により、背面や上面にあたる壁面が変色したり、壁紙がはがれたりすることがあります。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故・損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

次のページへつづく ➡

手順4：電源コードをつなぐ

本機およびテレビなどの接続した機器の電源コードを電源コンセントにつなぎます。
なお、本機の電源コードは、アンプなどの電源スイッチに連動した電源コンセントにつながないでください。アンプの電源を切ったときに、各種設定の内容が消去されることがあります。

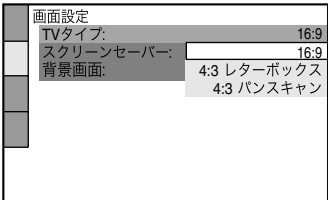
手順5：クイック設定をする

以下の手順に沿って基本の設定をします。設定をとばして次の設定に進むには、▶▶I を押します。1 つ前の設定に戻るには、I◀◀ を押します。

1 **テレビの電源を入れる。**

2 **テレビの入力を本機につないだ入力（「ビデオ」など）に切り換える。**

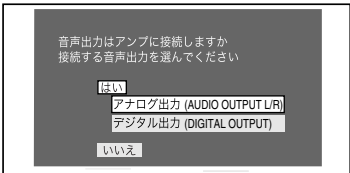
3 **本体の I/⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す。**
画面の下に「クイック設定するには [決定] を押してください」が表示されます。このメッセージが表示されないときは、コントロールメニュー画面で「設定」の「クイック」を選んで、クイック設定を始めます（64 ページ）。

4 ディスクが入っていない状態で決定ボタンを押す。

接続したテレビの種類を設定する画面が表示されます。

5 ↑／↓で項目を選ぶ。

このテレビと接続するときは	これを選ぶ	詳細ページ
ワイドテレビまたはワイドモードのある4：3画面のテレビ	「16:9」	66
従来の4：3画面のテレビ	「4:3 レターボックス」または「4:3 パンスキャン」	66

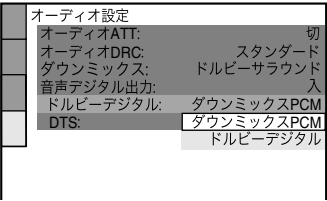
6 決定ボタンを押す。

アンプの接続について設定する画面が表示されます。

7 ↑／↓で項目を選んで決定ボタンを押す。

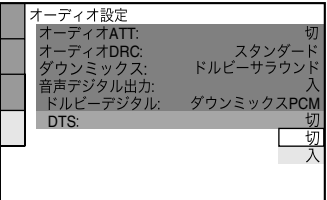
- 「いいえ」または「アナログ出力（AUDIO OUTPUT L/R)」を選んだときは、クイック設定が終了します。接続と設定はこれで完了です。
- 「デジタル出力（DIGITAL OUTPUT)」を選んだときは、ドルビーデジタル音声の出力を設定する画面が表示されます。手順 8 に進みます。

次のページへつづく ➡

8 ↑／↓で項目を選ぶ。

26 ～ 30 ページで選択した音声コードの接続パターン（B～D）に適した項目を選びます。

音声コードの接続パターン	これを選ぶ	詳細ページ
B-2 C-2	「ダウンミックス PCM」	70
D	「ドルビーデジタル」（ドルビーデジタルデコーダー付 AV アンプと接続したときのみ）	70

9 決定ボタンを押す。

DTS 音声の出力を設定する画面が表示されます。

10 ↑／↓で項目を選ぶ。

26 ～ 30 ページで選択した音声コードの接続パターン（B～D）に適した項目を選びます。

音声コードの接続パターン	これを選ぶ	詳細ページ
B-2 C-2	「切」	70
D	「入」（DTS デコーダー付 AV アンプと接続したときのみ）	70

11 決定ボタンを押す。

クイック設定が終了します。接続と設定はこれで完了です。

ご注意

初めてクイック設定をするときのみ、4 の操作で設定を始めることができます。2 回目以降は、コントロールメニュー画面で「設定」の「クイック」を選んで設定を行ってください (64 ページ)。

音声効果をより楽しむ

音声効果をより楽しむには、26 ～ 30 ページで選択した音声コードの接続パターン（B～D）にあわせて以下のように設定する必要があります。これらはお買い上げ時の設定です。設定の操作については「設定画面を使う」（64 ページ）をご覧ください。

接続（26 ～ 30 ページ）

設定の必要はありません。

B-1 C-1

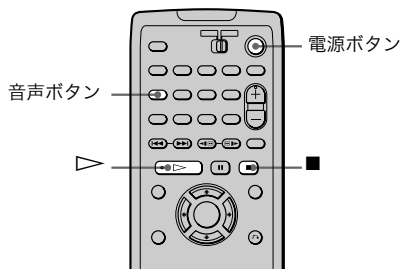
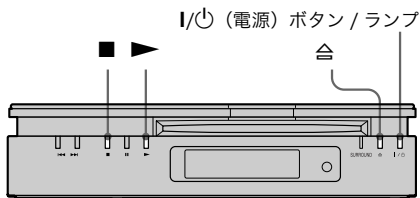
項目	これに設定する	詳細ページ
「ダウンミックス」	「ドルビーサラウンド」	69

- 音量を下げても音が歪む場合は、「オーディオ ATT」を「入」にしてください（68 ページ）。

B-2 C-2 D

項目	これに設定する	詳細ページ
「ダウンミックス」	「ドルビーサラウンド」	69
「音声デジタル出力」	「入」	69

ディスクを再生する

再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。
ディスクによっては、禁止されている操作もあります。

1 テレビの電源を入れる。

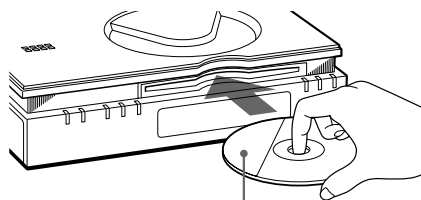
2 テレビの入力を本機をつないだ入力（「ビデオ」など）に切り換える。

アンプを使うときは

アンプの電源を入れ、アンプの入力を本機をつないだ入力に切り換えます。

3 本体の I/⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す。

I/⏻（電源）ランプ（赤）が緑に変わり、表示窓が点灯します。

4 ディスクスロットにディスクを入れる。

5 本体の ► またはリモコンの ▷ を押す。

再生が始まります。テレビまたはアンプで音量を調整します。

手順 5 の後に

ディスクによっては、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。そのときは表示されたメニュー画面（選択画面）にしたがって、操作をして再生します。DVD（40 ページ）ビデオ CD（41 ページ）

電源を切るには

本体の I/⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押します。本機はスタンバイモードになり、I/⏻（電源）ランプが赤く点灯します。電源を完全に切るときは、電源コードを抜きます。
再生中は電源コードを抜かないでください。設定内容が解除されることがあります。■ を押して再生を停止させてから、本体の I/⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押して電源を切ってください。

CD の DTS 音声再生時のご注意

• DTS で記録された CD を再生するとアナログ出力からは極端に大きなノイズが出ます。DVD プレーヤーのアナログ出力をアンプにつないでいるときは、お手持ちのシステムが破損しないよう細心の注意を払う必

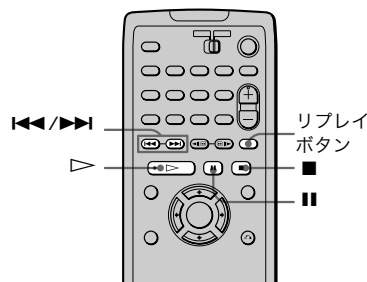
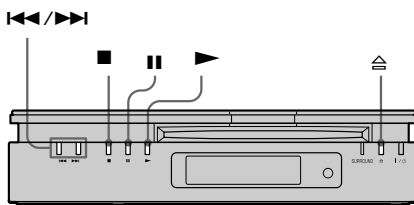
要があります。DTS Digital Surround™の再生をお楽しみいただくには、DVD プレーヤーのデジタル出力に 5.1 チャンネルの外部 DTS Digital Surround™ デコーダーを接続する必要があります。
- CD の DTS 音声を再生するときは、音声ボタンを繰り返し押して、音声を「ステレオ」に設定してください（52 ページ）。
- DTS デコーダーを内蔵していないオーディオ機器につないでいるときに CD の DTS 音声を再生すると、「オーディオ設定」の「DTS」を「切」に設定していても（70 ページ）DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から異音が出ます。

DVD の DTS 音声再生時のご注意

- DTS 音声信号は DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子からのみ出力されます。
- DTS デコーダーを内蔵していないオーディオ機器につないでいるときは、「オーディオ設定」の「DTS」を「入」に設定しないでください（70 ページ）。
  異音が出て耳に悪影響をおよぼしたり、スピーカーを破損することがあります。
- DVD の DTS 音声を再生するときは、「オーディオ設定」の「DTS」を「入」に設定します（70 ページ）。

ご注意

- ディスクを再生していないときに 30 分以上本体またはリモコンを操作しないと、自動的にスタンバイモード（待機状態）になります（オートパワーオフ機能）。
- 8cm ディスクを入れるときは、ディスク挿入口の中央にまっすぐ、ゆっくりと挿入してください。ディスクが取り出せないときは、お近くのソニーサービス窓口にお問い合わせください。
- 本機では、8cmCD をアダプターを使わずに再生できます。8cmCD にシングルアダプターをつけてディスクを再生すると、故障の原因になることがあります。

いろいろな操作方法

こんなときは	こうする
止める	■ を押す
途中で止める	⏸ を押す
途中で止めたあと、つづきを再生する	⏸または▷(▶) を押す
再生中にチャプターや映像、曲を進める	⏭ を押す
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	⏮ を押す
ディスクを取り出す	⏏ を押す
少し前の画像に戻る（DVD のみ）	リプレイボタンを押す

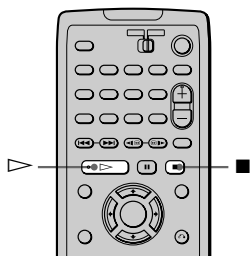
💡 リプレイ機能は、セリフを聞き直す時などに使うと便利です。

ご注意

再生場面によっては、リプレイ機能が使えないことがあります。

再生する

再生を止めたところから再生する（リジューム再生）   CD

再生を止めたあと、そのつづきから再生できます。ディスクを取り出さない限り、本機がスタンバイモード（待機状態）になってもリジューム再生が働きます。

1 ディスクの再生中、■ を押して、再生を止める。

表示窓に「RESUME」と表示されます。「RESUME」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2 ▷ を押す。

手順 1 で再生を止めたところから、再生が始まります。

ディスクを最初から再生したいときは、■ を 2 回押してから、▷ を押します。

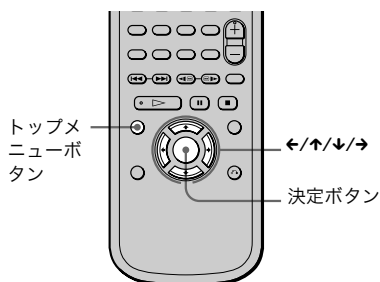
ご注意

- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消え、リジューム再生できません。
  —電源コードを抜いたとき
  —再生モードを変えたとき
  —設定画面で設定を変更したとき

DVD のメニューを使う DVD

DVD には、トップメニューや、メニューのような DVD 独自のメニューが記録されているものがあります。これらのメニューを使って再生できます。

トップメニューを使う

複数のタイトル（映像や曲）が記録されている DVD を再生するときは、トップメニューで好きなタイトルを選べます。

1 トップメニューボタンを押す。

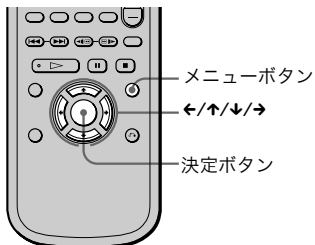
トップメニューが表示されます。
メニューの内容はディスクによって異なります。

2 再生したいタイトルを ← / ↑ / ↓ / → で選ぶ。

3 決定ボタンを押す。

選んだタイトルの再生が始まります。

メニューを使う

ディスクの内容をメニューで選択できるDVDを再生するときは、再生したい項目や字幕の言語、音声の言語などをメニューで選べます。

1 メニューボタンを押す。

メニューが表示されます。メニューの内容はDVDにより異なります。

2 選びたい項目を← /↑/↓ /→で選ぶ。

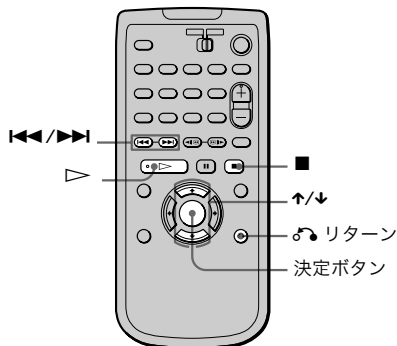
3 別の項目に変更したいときは、手順2を繰り返す。

4 決定ボタンを押す。

プレイバックコントロール機能を使う

(PBC再生) VIDEO CD

PBC（Playback Control）機能を使って、対話型の操作や検索などができます。

PBC再生とは、テレビ画面に表示される選択用のメニューにしたがって、再生を進めていくことです。

1 PBC対応ビデオCDを再生する。

選択用のメニュー画面が表示されます。

2 メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を↑／↓で選ぶ。

3 決定ボタンを押す。

4 テレビ画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。

操作の方法はディスクによって異なることがありますので、ディスク付属の説明書もあわせてご覧ください。

再生する

次のページへつづく ➡

選択用のメニュー画面に戻るには

↶ リターンを押す。

💡 PBC 機能を使わないで再生するときは、停止中、⏮ や ⏭ を押して再生したいトラックを選んでから、▷ または決定ボタンを押します。画面上に「PBC を切って再生します」が表示され、通常の再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。
PBC 再生に戻すには、■ を押して再生を止めたあと、もう一度 ■ を押してから ▷ を押して再生を始めます。

ご注意

ディスクによっては手順 3 で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは、▷ を押してください。

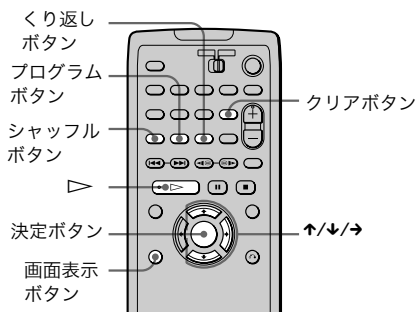
再生モードを使う
（プログラム / シャッフル / リピート /A-B リピート）

再生モードには次の種類があります。
- プログラム再生（42 ページ）
- シャッフル再生（44 ページ）
- リピート再生（45 ページ）
- A-B リピート再生（46 ページ）

ご注意

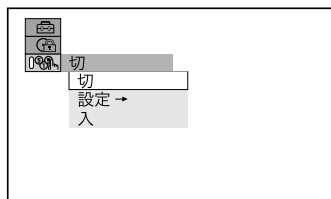
- 設定した再生モードは、次の場合に解除されます。
  —ディスクを取り出したとき
  —本体の I/⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき

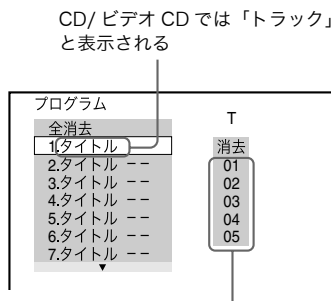
好きな順に再生する（プログラム再生）

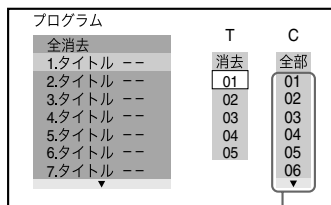
タイトルやチャプター、トラックを好きな順に再生できます。最大 99 個のタイトルやチャプター、トラックをプログラムできます。

1 停止中に画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が出ます。

2 ↑/↓ で [icon]（プログラム）を選び、決定ボタンを押す。

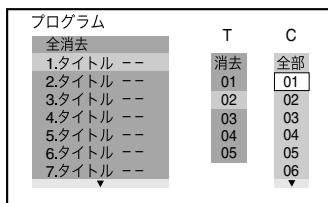
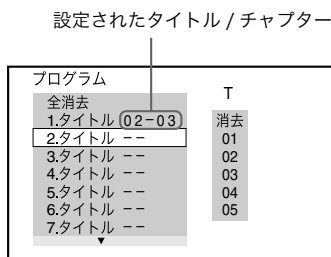
「プログラム」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ で「設定 →」を選び、決定ボタンを押す。

プログラム設定画面が表示されます。

4 → を押す。

タイトルまたはトラックにハイライトが移ります（この場合「01」）。

5 プログラム再生したいタイトル / チャプターまたはトラックを設定する。

■ DVD のとき

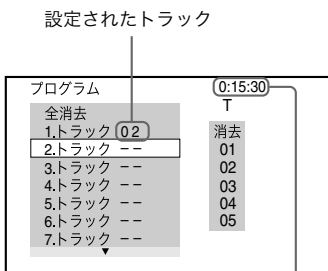
例）タイトル「02」のチャプター「03」を設定する。

↑/↓ で「T」の「02」を選び、決定ボタンを押します。

次に ↑/↓ で「C」の「03」を選び、決定ボタンを押します。

■ CD/ ビデオ CD のとき

例）トラック「02」を設定する。

↑/↓ で「T」の「02」を選び、決定ボタンを押します。

再生する

次のページへつづく ➡

6 続けて再生するタイトル/チャプター/トラックを設定したいときは、手順4～5を繰り返す。

タイトル/チャプター/トラックが選んだ順に表示されます。

7 ▷ を押す。

プログラム再生が始まります。
プログラム再生が終わっても、▷ を押せば同じプログラムを再生します。

通常の再生に戻すには

クリアボタンを押します。または手順3で「切」を選びます。
もう一度同じプログラムを再生するには、手順3で「入」を選び、▷ を押します。

画面表示を消すには

画面表示が消えるまで、画面表示ボタンを押します。

プログラムの設定を変更するには

1 「好きな順に再生する（プログラム再生）」の手順1～3を行う。

2 ↑/↓ を使って変更したいタイトル、チャプター、トラックのプログラム番号を選び、→ を押す。

3 手順5の操作で新しい設定を入力する。
プログラムを取り消すときは、「T」の下にある「消去」を選び、決定ボタンを押す。

設定したプログラムを消すには

1 「好きな順に再生する（プログラム再生）」の手順1～3を行う。

2 ↑ を押し、「全消去」を選ぶ。

3 決定ボタンを押す。

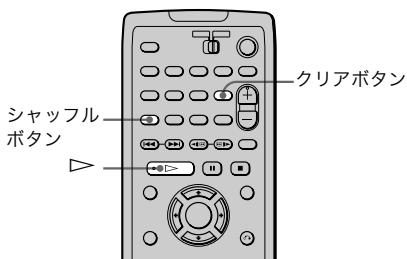
設定したプログラムで「リピート再生」や「シャッフル再生」もできます。プログラムを再生中に、くり返しボタンやシャッフルボタンを押します。

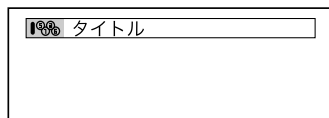
「プログラム」を直接選べます。プログラムボタンを押します。

ご注意

タイトル/チャプター/トラックはディスクに記録されている数だけ画面に表示されます。

順不同に再生する（シャッフル再生）

ディスクに記録された順番に関係なく、本機が自動的にタイトルやトラックの順番を選んで、再生します。再生する順番は、シャッフル再生をするたびに変わります。

1 再生中にシャッフルボタンを押す。

画面上にモード設定表示が出ます。

2 シャッフルボタンを繰り返し押して、項目を選ぶ。

■ **DVDのとき**

- タイトル：タイトルを順不同にして再生します。
- チャプター：チャプターを順不同にして再生します。

■ **ビデオ CD / CD のとき**

- トラック：トラックを順不同にして再生します。

■ **プログラム再生しているとき**

- 入：タイトルまたはトラックをプログラム番号ごとに順不同にして再生します。

通常の再生に戻すには

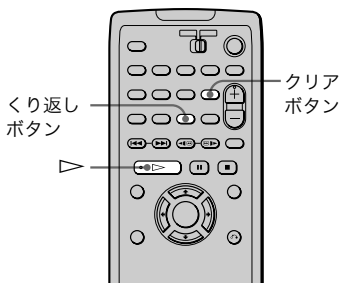
手順 2 で「切」を選びます。または、クリアボタンを押します。

停止中にシャッフル再生を設定できます。シャッフルボタンで項目を選び、▷ を押します。シャッフル再生が始まります。

ご注意

「チャプター」を選んだとき、ディスク中の 200 のチャプターまでシャッフル再生できます。

繰り返し再生する（リピート再生）

ディスクのすべてのタイトルまたはトラック、または 1 つのタイトル / チャプター / トラックを繰り返し再生できます。
シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせて使うこともできます。

1 再生中にくり返しボタン押す。

画面上にモード設定表示が出ます。

チャプター

2 くり返しボタンを繰り返し押して、リピート再生の設定を選ぶ。

■ **DVD のとき**

- ディスク：すべてのタイトルを繰り返し再生します。
- タイトル：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- チャプター：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

■ **ビデオ CD / CD のとき**

- ディスク：すべてのトラックを繰り返し再生します。
- トラック：再生中のトラックを繰り返し再生します。

■ **プログラム再生やシャッフル再生をしているとき**

- 入：プログラム再生、シャッフル再生を繰り返し再生します。

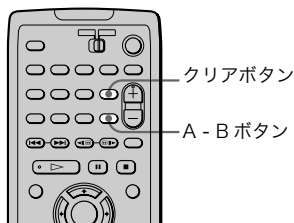
通常の再生に戻すには

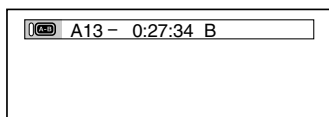
手順 2 で「切」を選びます。または、クリアボタンを押します。

停止中にリピート再生を設定できます。くり返しボタンで項目を選び、▷ を押します。リピート再生が始まります。

次のページへつづく →

再生したい部分だけを繰り返す（A-B リピート）

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。

1 再生中に繰り返す部分の始点（A 点）で A - B ボタンを押す。

画面上にモード設定表示が出ます。

2 繰り返す部分の終点（B 点）でもう一度 A - B ボタンを押す。

指定した部分を繰り返し再生します。

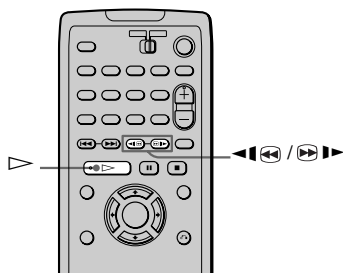
通常の再生に戻すには

クリアボタンを押します。

ご注意

- A-B リピートが設定できるのは 1 か所のみです。
- A-B リピートを設定すると、シャッフル再生やリピート再生、プログラム再生は解除されます。

見たいところ、聞きたいところをさがす
（早送り / 早戻し / スロー再生）

再生しながら早送りや早戻しをして、見たいところや聞きたいところをさがしたり、
スロー再生をすることができます。

ご注意

DVD、ビデオ CD によっては操作が禁止されている場合があります。

早送り / 早戻しをして見たいところ、聞きたいところをさがす（スキャン）

再生中に早送りするには⏩❚► を、早戻しをするには◄❚⏪ を押します。▷ を押すと通常の再生に戻ります。
スキャン中に◄❚⏪ または⏩❚► を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。3 種類の速さを選ぶことができます。
ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向

×2► （DVD/CD のみ）→ 1►► → 2►►

逆方向

×2◄ （DVD のみ）→ 1◄◄ → 2◄◄

「×2◄」/「×2►」は通常の約 2 倍の速度で再生します。
「1◄◄」/「1►►」より、「2◄◄」/「2►►」のほうが、高速で再生します。

スロー再生をする DVD VIDEO CD

一時停止中に◄❚⏪ または⏩❚► を押します。
▷ を押すと通常の再生に戻ります。
スロー再生中、◄❚⏪ または⏩❚► を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。2 種類の速さを選ぶことができます。
ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向

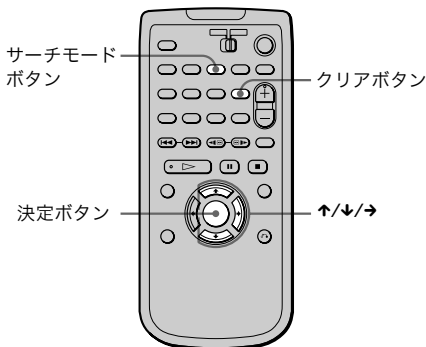
2❚► ↔ 1❚►

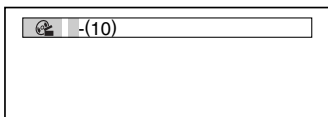
逆方向（DVD のみ）

2◄❚ ↔ 1◄❚

「1◄❚」/「1❚►」より「2◄❚」/「2❚►」のほうが、低速で再生します。

タイトルやトラック、タイムコードを使って頭出しする
（サーチモード）

DVDのタイトルまたはチャプター、タイトルの経過時間、ビデオCDやCDのトラックまたはインデックス、シーンで映像や曲を探すことができます。
タイトルやトラックなどには、ディスク上で番号がつけられているので、その番号を選んで頭出しします。また、タイトルの経過時間をタイムコードで入力して場面を探すこともできます。

1 再生中にサーチモードボタンを押す。

画面上にモード設定表示が出ます。
カッコ内の数字はディスクに記録されているタイトルやトラック、シーンなどの総数です。

2 サーチモードボタンを繰り返し押して、検索項目を選ぶ 。

■ DVDのとき

（タイトル）または （チャプター）、 （時間／テキスト）、 （数字入力）
タイムコードを入力して場面を探すときは、「時間／テキスト」を選びます。

■ ビデオCDのとき

（トラック）または （インデックス）

■ ビデオCDをPBC再生をしているとき

（シーン）

■ CDのとき

（トラック）または （インデックス）

3 ↑/↓ でタイトルやトラック、シーンなどの番号を入力する。（次の桁へは → を押す。）

たとえば、タイムコードで始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには、手順2で「時間／テキスト」を選んだあと2:10:20と入力します。

間違えたときは

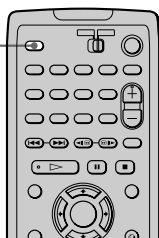
クリアボタンを押して、入れなおします。

4 決定ボタンを押す。

選んだ場所の再生が始まります。

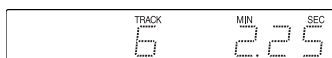
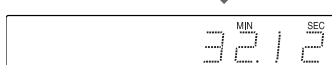
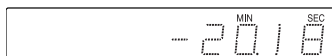
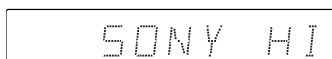
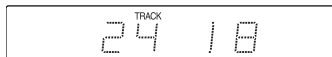
ディスク再生中に番号を入力する必要がでた場合、手順2で「数字入力」を選んでください。

表示窓で経過時間と残り時間を見る

表示窓で、ディスクの残り時間や、再生中のDVDのタイトル番号、再生中のCD/ビデオCDのトラック番号などを調べることができます。（表示窓の見かた13ページ）

再生中、時間／テキストボタンを押す。

ボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

DVDのとき

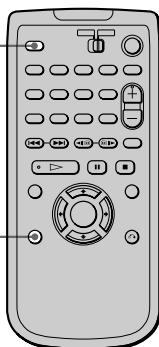
ビデオ CD（PBC 再生中以外）/CD のとき

ビデオ CD で PBC 再生しているときは、シーン番号または経過時間が表示されます。

再生中のチャプターやタイトル、トラック、シーン、ディスクの経過時間および残り時間を画面に表示することができます。詳しくは、「経過時間と残り時間を見る」をご覧ください。

ご注意

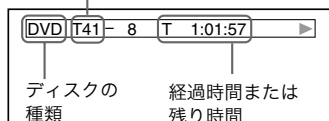
再生しているディスクや再生モードによっては、このような表示にならないことがあります。

経過時間と残り時間を見る DVD VIDEO CD CD

再生中のタイトル、チャプター、トラックの経過時間と残り時間、ディスクの経過時間と残り時間を見られます。ディスクに記録されたDVD テキストや CD テキストを見ることもできます。

1 再生中に画面表示ボタンを押す。

画面上にステイタス表示が出ます。

タイトルまたは
トラック番号

DVD T41 – 8 T 1:01:57

ディスクの
種類

経過時間または
残り時間

2 時間／テキストボタンを繰り返し押して、時間表示を切り換える。

表示や切り換えできる時間の種類はディスクによって異なります。

■ DVDのとき

- T　＊＊：＊＊：＊＊
  タイトルの経過時間
- T－＊＊：＊＊：＊＊
  タイトルの残り時間
- C　＊＊：＊＊：＊＊
  チャプターの経過時間
- C－＊＊：＊＊：＊＊
  チャプターの残り時間

■ ビデオCDをPBC再生しているとき

- ＊＊：＊＊
  シーンの経過時間

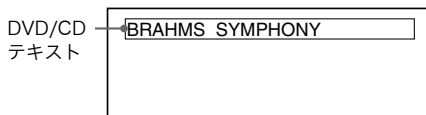
■ ビデオCD（PBC再生中以外）/ CDのとき

- T　＊＊：＊＊
  トラックの経過時間
- T－＊＊：＊＊
  トラックの残り時間
- D　＊＊：＊＊
  ディスクの経過時間
- D－＊＊：＊＊
  ディスクの残り時間

画面表示を消すには

画面表示が消えるまで、画面表示ボタンを押します。

DVD/CDテキストを見るには

手順2で、時間／テキストボタンを繰り返し押します。テキストがディスクに記録されているときのみ表示されます。記録されていないと「NO TEXT」と表示されます。

1行で表示しきれないDVD/CDテキストは、表示窓にスクロールして表示されます。

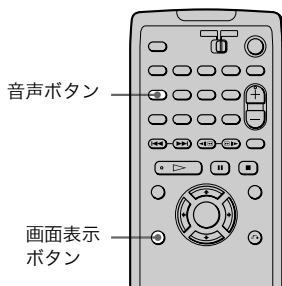
「時間／テキスト」を直接選べます。時間 / テキストボタンを押します。

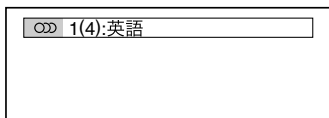
ご注意

- アルファベットのテキストのみ表示できます。
- 本機はDVD/CDテキストの最初の部分（タイトル名など）のみ表示できます。

ディスクの情報を見る

音声を切り換える

DVD の再生中に音声の言語や音声記録方式を選ぶことができます。
また、CD やビデオ CD 再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。カラオケのビデオ CD などで、伴奏だけを聞くこともできます。

1 再生中に音声ボタンを押す。

画面上にモード設定表示が出ます。
カッコ内の数字は、ディスクに記録されている音声の総数です。

2 音声ボタンを繰り返し押して、音声を選ぶ。

■ DVD のとき

選べる言語は DVD によって異なります。4 桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（79 ページ）を参照してください。同じ言語が 2 個以上表示されたときは、音声記録方式（チャンネル数など）が異なります。

■ ビデオ CD / CD のとき

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- ステレオ：通常のステレオ再生
- 1/L：左チャンネルの音（モノラル）
- 2/R：右チャンネルの音（モノラル）

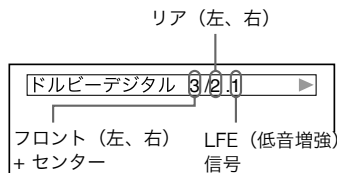
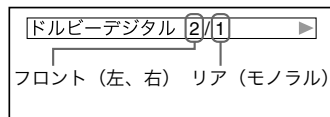
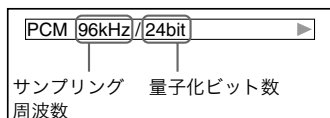
ご注意

- 複数の音声が記録されていないディスクでは、音声の切り換えはできません。
- DVD 再生中、自動的に音声が切り換わることがあります。

再生中の音声記録方式を調べる DVD

再生中に画面表示ボタンを 2 回押すと、現在再生中の音声記録方式が画面上に表示されます（ドルビーデジタル、DTS、PCM など）。

例）

- ドルビーデジタル 5.1ch 音声

- ドルビーデジタル 3 ch 音声

• PCM（ステレオ）音声

音声信号について

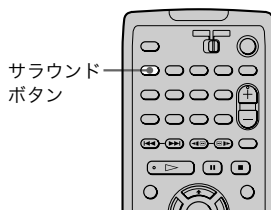
ディスクに録音されている音声信号は以下のような音声成分（チャンネル）で構成されています。各チャンネルは接続されているスピーカーに振り分けられ、出力されます。

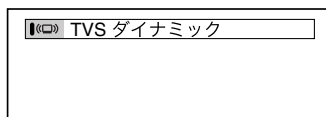
- フロント（左）
- フロント（右）
- センター
- リア（左）
- リア（右）
- リア（モノラル）：ドルビーサラウンド処理された信号または、ドルビーデジタル信号のモノラルのリア成分
- LFE（Low Frequency Effect：低音増強）信号

ご注意

「オーディオ設定」で「DTS」を「切」にしている場合（70 ページ）、ディスクに DTS 信号が含まれていても DTS の表示は出ません。

TV バーチャルサラウンドを楽しむ (TVS)

ステレオテレビや 2 台のフロントスピーカーをつないでいるとき、TV バーチャルサラウンド（TVS）機能で、マルチチャンネル信号を音像処理することにより、フロントスピーカーのみでも仮想サラウンドが楽しめます。
TVS は AUDIO OUT L/R 端子から出力される音声にのみ効果があります。
DVD 再生時に TVS を設定すると、「オーディオ設定」で「ドルビーデジタル」を「ダウンミックス PCM」にしている場合（70 ページ）、DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から音声信号は出力されません。

1 再生中にサラウンドボタンを押す。

画面上にモード設定表示が出ます。

2 サラウンドボタンを繰り返し押して、サラウンド効果を選ぶ。

- TVS ダイナミック
- TVS ワイド
- TVS ナイト
- TVS スタンダード

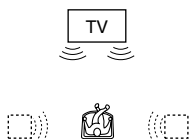
音声を楽しむ

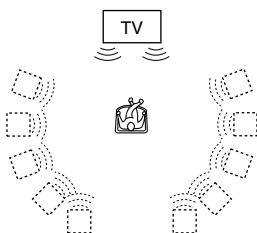
次のページへつづく ➡

設定を解除するには

手順２で「切」を選びます。

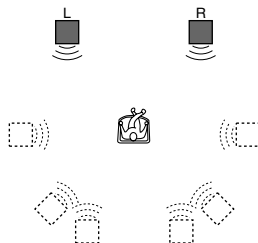
■ TVS ダイナミック

音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、１組の仮想リアスピーカーを下図のように再現します。音像描写にすぐれているため、仮想スピーカーをはっきり再現します。ステレオスピーカー内蔵テレビのように、左右のフロントスピーカーの距離が近いときに効果的です。

■ TVS ワイド

音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、５組の仮想スピーカーを下図のように再現します。仮想サラウンド空間の広がりを最も体験できるサラウンド効果です。ステレオスピーカー内蔵テレビのように、左右のフロントスピーカーの距離が近いときに効果的です。

■ TVS ナイト

低音量でもサラウンド効果を得ることができ、「TVS ワイド」と同様の仮想スピーカーを再現します。また、爆発音などの大きな音声が絞られ、セリフなどの小さな音声が聞きとりやすくなります。隣近所に迷惑をかけたくない時などに便利です。

■ TVS スタンダード

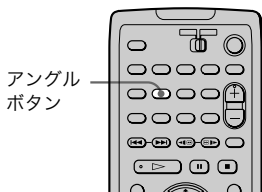
音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、３組の仮想スピーカーを下図のように再現します。音質を重視した設定です。２台のフロントスピーカーにつないでいるときに効果的です。

L：フロントスピーカー（L）
R：フロントスピーカー（R）
⬚：仮想スピーカー

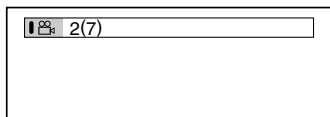
「切」以外を選んでいると、本体のSURROUND ランプが点灯します。

ご注意

- 項目を選んだときは一瞬音が途切れます。
- リア音声（52 ページ）が記録されていないディスクの場合、サラウンド効果はわかりにくくなります。
- 「TVS」の項目を選んでいるときは、つないでいる機器（アンプやテレビなど）のサラウンドの設定は「切」にしてください。
- フロントスピーカーはリスニングポジションがスピーカーの間になるように設置します。また、スピーカーはリスニングポジションから見て距離的にも環境的にも左右対称になるように設置すると、より高いサラウンド効果を得られます。設置場所が適切でないと「TVS」を選んでも効果がわかりにくいことがあります。
- 「TVS ナイト」は DVD のドルビーデジタル音声のみ効果があります。効果の度合はディスクによって異なります。
- DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子にスピーカーをつないだ場合、音声は出力されますが、TVS 効果はありません。

アングルを切り換える DVD

複数のアングルがディスクに記録されているとき、好きなアングルに切り換えることができます。
例えば、動いている電車のシーンの再生中に、電車の正面から見ていた景色を、右の窓からの景色に切り換えて見ることができます。アングルを変えられるときは、表示窓に「ANGLE」が点灯します。

1 再生中にアングルボタンを押す。

画面上にモード設定表示が出ます。
カッコ内の数字は、ディスクに記録されているアングルの総数です。

2 アングルボタンを繰り返し押して、アングル番号を選ぶ。

選んだアングルに切り換わります。

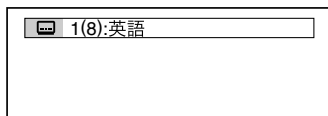
ご注意

ディスクによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

字幕を表示する DVD

字幕が記録されているディスクは、再生中に字幕を表示したり消したりできます。複数の言語で字幕が記録されているときは、字幕を切り換えて、語学の学習に役立てたりできます。

1 再生中に字幕ボタンを押す。

画面上にモード設定表示が出ます。
カッコ内の数字は、ディスクに記録されている字幕の総数です。

2 字幕ボタンを繰り返し押して、言語を選ぶ。

選べる言語はディスクによって異なります。
4 桁の数字が表示されたときは「言語コード一覧表」(79 ページ)を参照してください。

設定を解除するには

手順 2 で「切」を選びます。

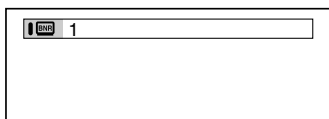
ご注意

ディスクによっては字幕が記録されていても、字幕表示したり消したりすることや、切り換えを禁止している場合があります。

画質を調整する（BNR）

画面上にモザイクのように現れるブロックノイズを低減します（ブロックノイズリダクションー BNR 機能）。

1 再生中に BNR ボタンを押す。

画面上にモード設定表示が出ます。

2 BNR ボタンを繰り返し押して、レベルを選ぶ。

数値が大きくなると、ノイズがより目立たなくなります。

- 1：ブロックノイズを低減します。
- 2：「1」よりもノイズを低減します。
- 3：「2」よりもノイズを低減します。

設定を解除するには

手順 2 で「切」を選びます。

ご注意

- 画像の輪郭がぼやけるときは「切」を選んでください。
- ディスクの種類や再生している場面によっては、BNR の効果がわかりにくいことがあります。

ディスクの再生を制限する（カスタム視聴制限、視聴年齢制限）

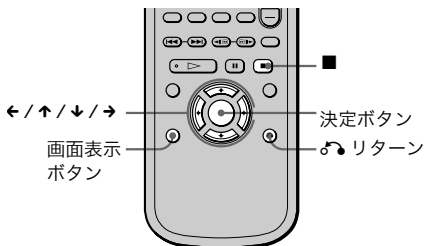
本機には、ディスクの再生を制限する次の 2 種類の機能があります。

- カスタム視聴制限
  本機で特定のディスクを再生できないようにする。
- 視聴年齢制限
  視聴年齢制限つき DVD の再生できるシーンを制限する。

カスタム視聴制限も視聴年齢制限も、登録した同じ暗証番号を使って設定します。

カスタム視聴制限—設定する

DVD VIDEO CD CD

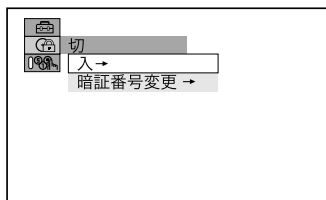
登録した同じ暗証番号を使って、50 枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。51 枚目のディスクを設定すると、1 番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

1 設定したいディスクを入れる。

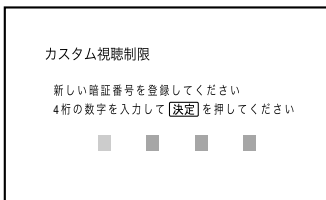
ディスクを再生しているときは、■ を押して再生を止めます。

2 停止中に画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓ で「カスタム視聴制限」を選び、決定ボタンを押す。

「カスタム視聴制限」の設定項目が表示されます。

4 ↑/↓ で「入 →」を選び、決定ボタンを押す。

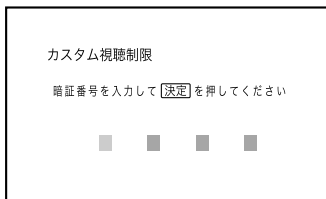
■ 暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。

↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返して 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号確認の画面が出ます。

■ 暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。

次のページへつづく →

5 ↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返して４桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

「カスタム視聴制限を設定しました」と表示され、コントロールメニューの画面に戻ります。

暗証番号を間違えたときは

決定ボタンを押す前に ← を押して、選びなおします。

間違えたときは

リターンを押して、手順３から選びなおします。

画面表示を消すには

リターンを押したあと、画面表示が消えるまで画面表示ボタンを押します。

カスタム視聴年齢制限を解除するには

1 「カスタム視聴制限―設定する」の手順１〜３を行う。

2 ↑/↓ で「切 ⟶」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返して４桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号を変更するには

1 「カスタム視聴制限―設定する」の手順１〜３を行う。

2 ↑/↓ で「暗証番号変更 ⟶」を選び、決定ボタンを押す。

暗証番号入力の画面が表示されます。

3 ↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返して４桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返して新しい４桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

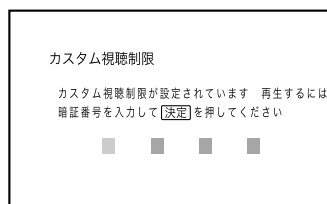
5 確認のため、↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返してもう一度暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

カスタム視聴制限―再生する

1 カスタム視聴制限が設定されたディスクを入れる。

カスタム視聴制限の画面が表示されます。

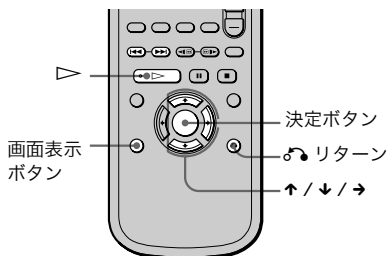
カスタム視聴制限

カスタム視聴制限が設定されています　再生するには
暗証番号を入力して 決定 を押してください

2 ↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返して４桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

再生できる状態になります。

暗証番号を忘れてしまったときは、カスタム視聴制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、６桁の数字「199703」を ↑/↓ で入力します。（次の桁を入力するには → を押します。）画面に、新しい４桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

視聴年齢制限—設定する DVD

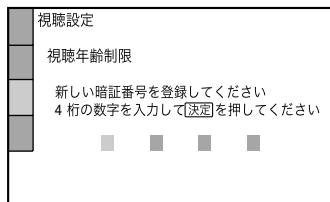
DVDの中には、地域ごとに設けられたレベル（見る人の年齢など）によって視聴を制限できるものがあります。視聴年齢制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。
制限されているシーンが再生されたとき、そのシーンをカットしたり、あらかじめ用意された別のシーンに差し替えて再生します。

1 停止中に画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が表示されます。

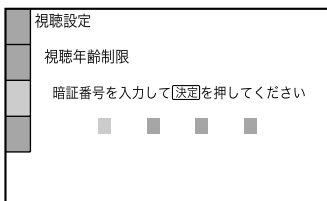
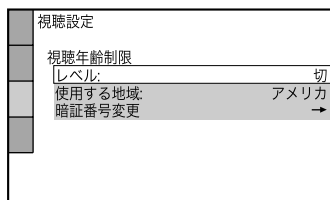
2 ↑/↓で「設定」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「カスタム」を選び、決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

4 ↑/↓で「視聴設定」を選び、決定ボタンを押す。
「視聴設定」画面が表示されます。

5 ↑/↓で「視聴年齢制限 →」を選び、決定ボタンを押す。

■ **暗証番号が登録されていないとき**
暗証番号登録の画面が表示されます。

↑/↓で数字を選び、→を押す、を繰り返して4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
暗証番号確認の画面が出ます。

■ **暗証番号がすでに登録されているとき**
暗証番号入力の画面が出ます。

6 ↑/↓で数字を選び、→を押す、を繰り返して4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
視聴制限のレベル設定および、暗証番号の変更の画面が表示されます。

次のページへつづく →

7 ↑/↓ で「使用する地域」を選び、決定ボタンを押す。

「使用する地域」の選択項目が表示されます。

8 ↑/↓ で視聴制限レベルの基準にする地域を選び、決定ボタンを押す。

地域が選ばれます。

「その他 →」を選んだときは、次ページの表から地域コードを選び、↑/↓ で入力します。

9 決定ボタンを押す。

「レベル」の選択項目が表示されます。

10 ↑/↓ で制限するレベルを選び、決定ボタンを押す。

視聴年齢制限の設定が終了します。

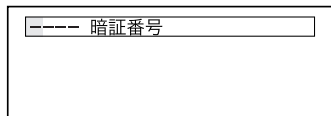
レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

間違えたときは

↶ リターンを押して1つ前の画面に戻り、選びなおします。

画面表示を消すには

画面表示が消えるまで、画面表示ボタンを押します。

視聴年齢制限を解除するときは

手順10で「レベル」を「切」にします。

暗証番号を変更するには

1 「視聴年齢制限―設定する」の手順1～6までを行う。

2 ↓ を使って「暗証番号変更 →」を選び、決定ボタンを押す。
暗証番号入力の画面が出ます。

3 もう一度手順6を行い、新しい暗証番号を登録する。

視聴年齢制限―再生する

1 ディスクを入れて、▷ を押す。

視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。

2 ↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返して 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

再生が始まります。

登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ディスクを取り出し、「視聴年齢制限―設定する」の手順 1 〜 5 にしたがって操作します。暗証番号を入力する案内が表示されたら、6 桁の数字「199703」を ↑/↓ で入力します。（次の桁を入力するには → を押します。）画面に、新しい 4 桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。
新しい暗証番号を入力して、ディスクを本機に入れなおし、▷ を押します。暗証番号入力画面が表示されるので、新しい暗証番号を入れます。

ご注意

視聴年齢制限機能がない DVD は、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。

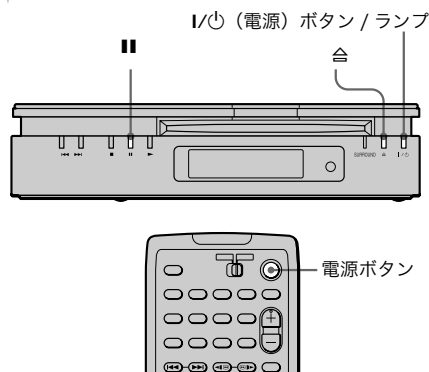
■ 地域コード

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	香港	2219
タイ	2528	マレーシア	2363
台湾	2543	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

操作音を鳴らす（お知らせビープ）

次のような操作をしたときに、操作音を鳴らすことができます。
お買い上げ時は操作音が鳴らないように設定されています。

操作	操作音
電源を入れたとき	「ピッ」
電源を切ったとき	「ピピッ」
▷ を押したとき	「ピッ」
❚❚ を押したとき	「ピピッ」
再生が止まったとき	「ピーッ」
禁止されている操作をしたとき	「ピピピッ」

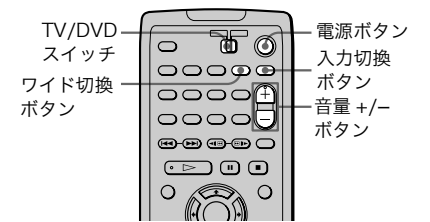
お知らせビープ機能を設定する

1 本体の I/⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す。
I/⏻（電源）ランプが緑に点灯します。
ディスクがディスクスロットに入っているときは、≙ を押してディスクを取り除いてください。

2 本体の ❚❚ を 2 秒以上押す。
「ピッ」と操作音が鳴って、お知らせビープ機能が設定されます。

お知らせビープ機能を解除するには

ディスクが入っていないときに、本体の ❚❚ を 2 秒以上押します。「ピピッ」と操作音が鳴って、お知らせビープ機能が解除されます。

付属のリモコンでテレビなどを操作する

本機のリモコンでソニー製テレビや別売りのアクティブスピーカーシステム（SA-F21）の音量などを操作できます。

ご注意

接続する機種によっては操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。

テレビを操作する

TV/DVD スイッチを「TV」側にすると、以下の操作ができます。（ソニー製テレビのみ）

押すボタン	できること
電源	テレビの電源を入／切する
音量 +/–	テレビの音量を調整する
ワイド切換	テレビのワイドモードを切り換える
入力切換	テレビの入力を切り換える

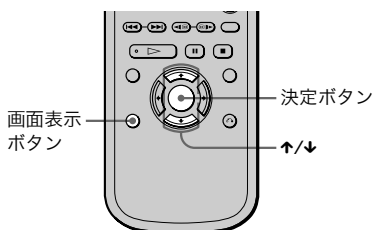
アクティブスピーカーシステム（SA-F21）を操作する

TV/DVD スイッチを「DVD」側にすると、音量 +/– ボタンで音量を調整できます。

ソニー製オーディオ機器のなかには、本機のリモコンで音量調整できるものがあります。

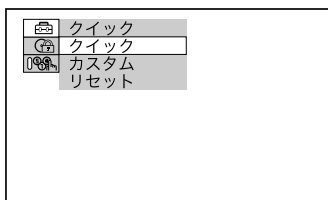
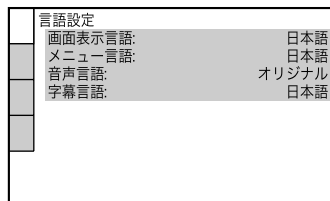
設定画面を使う

設定画面を使って、画質や音声などさまざまな設定ができます。また、DVD の字幕の言語やメニューの表示言語の設定などもできます。設定画面の項目の一覧は 80 ページをご覧ください。各項目について詳しくは、65 ～ 70 ページをご覧ください。

設定画面の使い方

1 停止中に画面表示ボタンを押す。

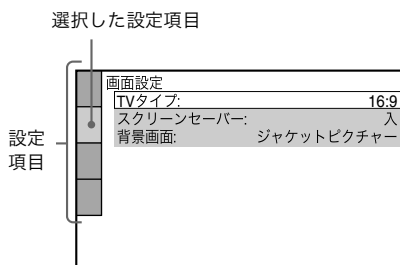
コントロールメニュー画面が表示されます。

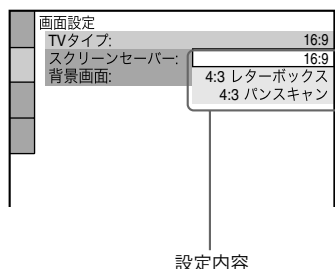
2 ↑ / ↓ で 「設定」を選び、決定ボタンを押す。

「設定」の設定項目が表示されます。

3 ↑ / ↓ で「カスタム」を選び、決定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。

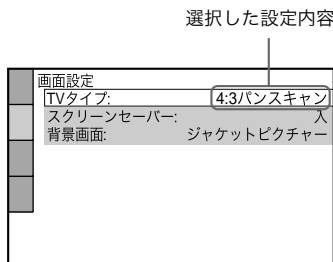
4 ↑ / ↓ で「言語設定」「画面設定」「視聴設定」「オーディオ設定」の中から、設定したい項目を選び、決定ボタンを押す。

選択した設定項目の画面が表示されます。

例）「画面設定」

5 ↑ / ↓ で項目を選び、決定ボタンを押す。

項目の設定内容が一覧表示されます。

例）「TV タイプ」の設定内容

6 ↑/↓で設定内容を選び、決定ボタンを押す。

設定内容が選ばれ、設定が終了します。
例）「4：3パンスキャン」

画面表示を消すには

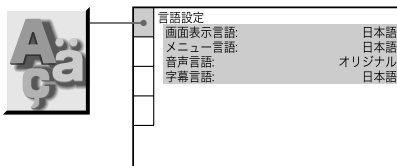
画面表示が消えるまで画面表示ボタンを押します。

手順3で「クイック」を選んで、決定ボタンを押すとクイック設定ができます。「手順5：クイック設定をする」（34ページ）の手順5以降にしたがって、設定していきます。

手順3で「リセット」を選ぶと、視聴年齢制限を除くすべての設定画面項目（80～81ページ）をお買い上げ時の設定に戻すことができます。
「リセット」を選び、決定ボタンを押したあと、「はい」を選び、決定ボタンを押します。リセットが完了するまで数秒かかります。「いいえ」を選び、決定ボタンを押すと、コントロールメニュー画面に戻ります。
リセット中は本体のI/⏻（電源）ボタンやリモコンの電源ボタンを押して、電源を切らないでください。

表示言語や音声言語の設定（言語設定）

言語設定画面では、画面や音声の言語を設定することができます。

設定画面で「言語設定」を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（64ページ）をご覧ください。

■ **画面表示言語**

画面の表示言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■ **メニュー言語（DVDのみ）**

メニューの言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■ **音声言語（DVDのみ）**

音声の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
「オリジナル」を選ぶと、ディスク内で優先されている言語が選ばれます。

■ **字幕言語（DVDのみ）**

字幕の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
「音声連動」を選ぶと、音声の言語に合わせて字幕の言語が切り換わります。

設定と調整

次のページへつづく →

💡「メニュー言語」「音声言語」「字幕言語」で「その他 →」を選んだときは、言語コード一覧表（79 ページ）から言語コードを選び入力してください。↑/↓ で数字を選び、→ を押す、を繰り返して言語コードを入力します。
次からは 4 桁の数字の言語コードが表示されます。

ご注意

選んだ言語がディスクに記録されていないときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます（「画面表示言語」を除く）。

画像に関する設定（画面設定）DVD

接続するテレビに合わせて設定します。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

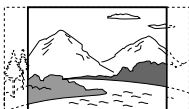
設定画面で「画面設定」を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（64 ページ）をご覧ください。

■ TV タイプ

接続するテレビの画面の種類（ワイドテレビまたは従来の 4：3 画面テレビ）を設定します。

16:9	ワイドテレビまたは、ワイドモードのあるテレビとつなぐとき
4:3 レターボックス	4:3 画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示する
4:3 パンスキャン	4:3 画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示する

16:9

4:3 レターボックス

4:3 パンスキャン

ご注意

DVD によっては「4:3 レターボックス」あるいは「4:3 パンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■ スクリーンセーバー

一時停止または停止したままで 15 分たつか、CD を 15 分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。▷ を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。

入	スクリーンセーバーを使う
切	スクリーンセーバーを使わない

■ 背景画面

停止中や CD 再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

ジャケットピクチャー	ディスク（CD-EXTRA など）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にする。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、「グラフィックス」の画像が表示される
グラフィックス	あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にする
青	画面の背景色を「青」にする
黒	画面の背景色を「黒」にする

視聴に関する設定（視聴設定） DVD

視聴年齢制限などを設定します。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で「視聴設定」を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（64 ページ）をご覧ください。

■ 自動再生

電源が入ったときの動作を設定します。

切	「タイマー」、「デモ 1」、「デモ 2」を使わないで起動する
タイマー	電源が入ったとき、自動で再生を始める。 別売りのタイマーを使えば希望の時刻に再生を始めることができる。タイマーでの時間の設定は本機がスタンバイモードのとき（本体の I/⏻（電源）ランプが赤く点灯しているとき）に行う
デモ 1	デモンストレーション 1 を再生する
デモ 2	デモンストレーション 2 を再生する

■ 表示窓の明るさ

本体の表示窓の明るさを調整します。

明	明るくする
暗	暗くする
消	本体の表示窓の表示を消す
自動	本体やリモコンを操作すると、数秒間点灯する

設定と調整

■ 一時停止モード（DVD のみ）

一時停止にしたときの画像のモードを設定します。

自動	大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られる。通常はこの設定にする
フレーム	動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られる

■ 視聴年齢制限 →（DVD のみ）

暗証番号を登録して、視聴年齢制限のあるDVD の再生を制限する設定をします。詳しくは「ディスクの再生を制限する（カスタム視聴制限、視聴年齢制限）」（57 ページ）をご覧ください。

■ 音声トラック自動選定モード（DVD のみ）

複数の音声記録方式が用意されている DVD を再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル）を優先して再生することができます。

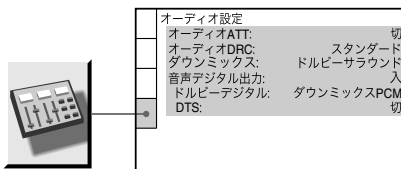
切	優先しない
入	優先する

ご注意

- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」（65 ページ）より優先されるためです。
- 「音声トラック自動選定モード」で「入」を選んでいても、「DTS」（70 ページ）を「切」に設定すると、DTS 音声は再生されません。
- PCM、DTS、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じ場合、PCM、DTS、ドルビーデジタルの順で優先されます。
- DVDによっては優先する音声があらかじめ決められていることがあります。この場合「入」に設定しても、チャンネル数の多い音声記録方式が優先されないことがあります。

音声に関する設定（オーディオ設定）

再生するときの音の設定を、再生や接続などの条件に合わせて設定します。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で「オーディオ設定」を選びます。
詳しくは「設定画面を使う」（64 ページ）をご覧ください。

■ オーディオ ATT（attenuation）（アテニュエイション）

本機の音声出力レベルを低くして、音が歪まないようにします。
この機能は、次の端子からの出力に効果があります。
– AUDIO OUT　L/R 端子

切	「オーディオ ATT」を働かせない。通常はこの設定にする
入	音が歪まないように音声の出力レベルを低くする。スピーカーからの音が歪むときなどにこの設定を選ぶ

■ オーディオ DRC（Dynamic Range Control）（ダイナミック レンジ コントロール）（DVD のみ）

DVD の音量を下げて聞くときに、小さい音までよく聞こえるようにします。オーディオ DRC 機能のある DVD を再生しているときのみ効果があります。
この機能は、次の端子からの出力に効果があります。
– AUDIO OUT　L/R 端子

–「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定したときのDIGITAL OUT (OPTICAL) 端子（70 ページ）

スタンダード	通常はこの設定にする
テレビ	小さい音までよく聞こえるようにする。特に、テレビのスピーカーを使って音を聞いているときに効果がある
ワイドレンジ	迫力のある音になる。 高品質のスピーカーを使うとさらに効果を得られる

■ ダウンミックス（DVD のみ）

「リア：左」や「リア：右」、「リア：モノラル」などのリア信号成分を含むドルビーデジタル方式で記録されているDVDを再生するとき、この設定を切り換えます。リア信号成分について詳しくは、「音声信号について」（53 ページ）をご覧ください。
この設定は、次の端子からの出力に効果があります。
– AUDIO OUT　L/R 端子
–「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定したときのDIGITAL OUT (OPTICAL) 端子（70 ページ）

ドルビーサラウンド	ドルビーサラウンド（プロロジック）対応のオーディオ機器を接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンドに適した信号が 2 チャンネルにダウンミックスされ出力される
ノーマル	ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応していないオーディオ機器を接続したときに選ぶ。すべての信号が 2 チャンネルにダウンミックスされて出力される

■ 音声デジタル出力

DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から音声信号を出力するか、しないかを選びます。

入	通常はこの設定にする。この設定を選んだら、「ドルビーデジタル」および「DTS」を設定する。設定について詳しくは、「音声デジタル出力の信号を設定する」を参照
切	DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から音声信号を出力しない。「切」を選ぶとデジタル回路がアナログ回路に与える影響を最小限に抑えられる

設定と調整

次のページへつづく ➡

音声デジタル出力の信号を設定する

DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子に、光デジタルコードを使って、次のような機器をつないだときの、音声信号の出力方式を設定します。
– デジタル入力端子のあるアンプ
– ドルビーデジタルまたはDTSデコーダー内蔵の AV アンプ
– MD デッキまたは DAT デッキ

接続について詳しくは、24 ページをご覧ください。

「音声デジタル出力」で「入」を選んでから、「ドルビーデジタル」および「DTS」を設定してください。

■ ドルビーデジタル

DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から出力するドルビーデジタル信号の方式を選びます。

ダウンミックス PCM	ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器を接続しているときに選ぶ。出力される信号のサラウンド効果の有無は「オーディオ設定」の「ダウンミックス」の設定によって決まる
ドルビーデジタル	ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器を接続しているときに選ぶ。 ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器を接続したときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりすることがある

■ DTS

DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から DTS 信号を出力するか、しないかを選びます。

切	DTS デコーダーを内蔵していないオーディオ機器を接続したときに選ぶ。この設定にしていても CD の DTS 信号は出力される
入	DTS デコーダー内蔵のオーディオ機器を接続しているときに選ぶ。 DTS デコーダーを内蔵していないオーディオ機器を接続したときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがある

ご注意

ＤＶＤ 再生時に TVS を設定すると、「オーディオ設定」で「ドルビーデジタル」を「ダウンミックス PCM」にしている場合、DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から音声信号は出力されません。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

➡ AC パワーアダプターや電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

映像

映像が出ない。

➡ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
➡ 接続コードが断線している。
➡ テレビの入力端子を間違えている（22 ページ）。
➡ テレビの入力切り換えで本機の映像が映るようにしていない。
➡ ハイビジョンテレビ専用のコンポーネントビデオ入力端子（Y/PB/PR）に本機を接続している。S 映像コードまたは映像コードで接続する。

映像が乱れる。

➡ ディスクに汚れや傷がある。
➡ 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続していると、一部の DVD プログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接接続していても画質に問題が生じる場合は、テレビの S 映像入力端子へ接続する（22 ページ）。

➡ ハイビジョンテレビ専用のコンポーネントビデオ入力端子（Y/PB/PR）に本機を接続している。S 映像コードまたは映像コードで接続する。

設定画面の「画面設定」の「TV タイプ」で設定した画像の形で再生できない。

➡ 画像の形が固定されているディスクを再生している。

音声

音が出ない。

➡ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
➡ 接続コードが断線している。
➡ アンプの入力端子を間違えている（26、28、30 ページ）。
➡ アンプの入力切換で本機の音声が出るようにしていない。
➡ 一時停止、スロー再生になっている。
➡ 早送りまたは早戻しになっている。
➡ DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から音が出ないときは設定画面を確認する（70 ページ）。

雑音が多い。

➡ ディスクに汚れ、傷がある。
➡ CD の DTS 音声を再生しているとき、AUDIO OUT L/R 端子から雑音が出る（38 ページ）。

音がひずむ。

➡ 設定画面の「オーディオ設定」の「オーディオ ATT」を「入」にする（68 ページ）。

次のページへつづく ➡

操作

リモコンで操作できない。

➡ リモコンと本体との間に障害物がある。
➡ リモコンと本体との距離が離れている。
➡ 本体のリモコン受光部に向けて操作していない。
➡ 本体のリモコン受光部に強い光が当たった。受光部を切り換える（19 ページ）。
➡ リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。

➡ ディスクが入っていない。
➡ ディスクが裏返しに入っている。
再生面を下にする。
➡ CD-ROM などの、再生できないディスクを入れている（10 ページ）。
➡ 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている（10 ページ）。
➡ 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約 30 分放置し、再び電源を入れ直してから再生を始める（3 ページ）。

再生がディスクの最初から始まらない。

➡ プログラムまたはシャッフル、リピート、A-B リピート再生になっている（42 ページ）。
クリアボタンを押してこれらの機能を解除してから、再生を始める。
➡ リジューム再生になっている。
停止中に、本体またはリモコンの ■（停止）ボタンを押してから再生を始める（40 ページ）。
➡ 自動的にメニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。

➡ 自動的に再生が始まる DVD を入れている。
➡ 設定画面の「視聴設定」の「自動再生」で「タイマー」を選んでいる（67 ページ）。

再生が自動的に止まる。

➡ ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

ストップ、スキャン、スロー、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作ができない。

➡ 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせて見る。

希望する言語で画面表示されない。

➡ 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」で希望の言語を選ぶ（65 ページ）。

音声言語を変更できない。

➡ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
➡ 音声言語の切り換えを禁止している DVD を再生している。

字幕を変更できない。

➡ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。
➡ 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。

➡ 字幕表示を消すことを禁止している DVD を再生している。

アングルを変更して見ることができない。

➡ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。

➡ 表示窓のアングル表示が点灯していない場面で、アングルを切り換えている（13ページ）。

➡ アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

正常に動作しない。

➡ 静電気などの影響で正常に動作しなくなったときは、電源コンセントを抜き差して、もう一度動作させてください。

表示窓に何も表示されない。

➡ 設定画面の「視聴設定」の「表示窓の明るさ」を「消」にしている。「明」または「暗」にする（67 ページ）。「自動」にすると、本体やリモコンを操作したときに点灯する。

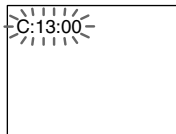
画面および表示窓に 5 桁のアルファベットと数字が表示されている。

➡ 自己診断機能が働いている。73 ページの表にしたがって対応する。

ディスクが取り出せず、表示窓に「LOCKED」と表示される。

➡ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

自己診断機能について（アルファベットで始まる表示が出たら）

本機の異常を未然に防ぐため、自己診断機能が働くと、画面および表示窓にアルファベットと数字で 5 桁のサービス番号（例：C 13 00）が表示されます。その際は次のように対応してください。

サービス番号の最初の 3 桁	原因と対応
C 13	ディスクが汚れています ➡ 柔らかい布でディスクを拭きます（11 ページ）
C 31	ディスクが正しく入っていません ➡ ディスクを正しく入れ直します
E XX （XX は任意の数）	異常を未然に防ぐため自己診断機能が働きました ➡ お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。その際はサービス番号の 5 桁すべてをお知らせください 例：E 61 10

その他

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、CD/DVD プレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DVP-F21
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

用語解説

インデックス (CD)/ ビデオインデックス（ビデオ CD）（13 ページ）
再生したい部分を見つけやすいように、1 つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたもの。インデックスが記録されていないディスクもある。

視聴年齢制限（57 ページ）
国ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、という DVD の機能。制限のしかたは DVD によって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

シーン（13 ページ）
PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオ CD で、メニュー画面や動画、静止画の区切りのこと。

タイトル（13 ページ）
DVD に記録されている映像や曲のいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画 1 作品、音楽ソフトではアルバム 1 枚（または 1 曲）にあたる。

地域番号（リージョンコード）（10 ページ）
著作権保護を目的に設けられた制度。販売地域によって、DVD プレーヤーや DVD ディスクには地域番号が割り当てられていて、プレーヤー本体やディスクのパッケージに、それぞれの地域番号が表示されている。プレーヤーとディスクの地域番号が一致していると再生できる。ALL 表示のあるディスクは、どのプレーヤーでも再生できる。なお、地域番号の表示がない DVD でも、地域制限されている場合がある。

チャプター（13 ページ）
DVD に記録されている映像や曲の区切りで、タイトルよりも小さい単位。1 つのタイトルはいくつかのチャプターで構成される。チャプターが記録されていないディスクもある。

トラック（13 ページ）
ビデオ CD や CD に記録されている映像や曲の区切り（1 曲分）。

ドルビーサラウンド（プロロジック）（28、68 ページ）
ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、リアに信号を出力する。リアチャンネルはモノラルになる。

ドルビーデジタル（24、70 ページ）
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1 チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

次のページへつづく ➡

D 映像信号（22 ページ）

D 端子付きデジタルテレビと 1 本のケーブルで簡単にコンポーネント映像信号を接続できるため、より高画質な画像となる。D 端子には対応する信号フォーマットによって D1、D2、D3 と D4 端子がある。

- D1 端子：525i（480i）の信号に対応
- D2 端子：525i（480i）と 525p（480p）の信号に対応
- D3 端子：525i（480i）と 525p（480p）、1125i（1080i）の信号に対応
- D4 端子：525i（480i）と 525p（480p）、1125i（1080i）と 750p（720p）の信号に対応

＊ i はインターレース、p はプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

DVD（10 ページ）

CD と同じ直径で最大 8 時間までの動画が記録できるディスク。
片面 1 層で 4.7GB（Giga Byte）と CD の 7 倍の情報が記録でき、片面 2 層で 8.5GB、両面 1 層では 9.4GB、両面 2 層では 17GB が記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」を採用し、映像データを約 1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報は PCM の他、ドルビーデジタルを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。
またマルチアングル、マルチランゲージ、視聴年齢制限などさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

DTS（24、70 ページ）

デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1 チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

TV バーチャルサラウンド（TVS）（53 ページ）

ソニーが開発したステレオテレビ用サラウンド技術のコンセプト名。テレビの音響特性にあわせた音づくりがされており、テレビに内蔵されたスピーカーでも効果的なサラウンドが楽しめる。TVS にはさまざまなサラウンドプログラムが用意されている。たとえば、「TVS ワイド」は、フロントスピーカー 2 台のみで後方に複数のスピーカーを配置したかのような音場をつくりだす。

主な仕様

システム

形式　CD/DVD プレーヤー
信号方式　JEITA 標準、NTSC カラー方式

音声特性

周波数特性　DVD（PCM 96 kHz 再生時）：2 Hz ～ 44 kHz（± 1.0 dB）*
DVD（PCM 48 kHz 再生時）：2 Hz ～ 22 kHz（± 0.5 dB）*
CD：2 Hz ～ 20 kHz（± 0.5 dB）*
信号対雑音比（S/N 比）　115 dB* （AUDIO OUT L/R 端子のみ）
全高調波ひずみ率　0.003 %*
ダイナミックレンジ　DVD：103 dB*
CD：99 dB*
ワウ・フラッター　測定限界（± 0.001% W PEAK）以下 *

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。
96kHz PCM 音声の測定は AUDIO OUT L/R 端子を使用。96kHz PCM 音声は、DIGITAL OUT (OPTICAL) 端子から 48kHz に変換されて出力されます。

出力端子

端子名	端子形状	最大出力レベル	負荷インピーダンス
DIGITAL OUT (OPTICAL)	光出力コネクター	-18 dBm	発光波長 660 nm
AUDIO OUT L/R	ピンジャック	2 Vrms（50 kΩ）	10 kΩ 以上
VIDEO OUT	ピンジャック	1.0 V_{P-P}	75 Ω 同期負
S-VIDEO OUT	4 ピンミニ DIN	輝度信号：1.0 V_{P-P} 色信号：0.286 V_{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端
D1 VIDEO OUT	D 端子	Y: 1.0 V_{P-P} C_B、C_R：0.7 V_{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端

電源、その他

電源　DC 10.5 V
消費電力　12 W
最大外形寸法　252 × 60 × 183 mm（幅／高さ／奥行き）
質量　約 1.5 kg
許容動作温度　5 ～ 35 ℃
許容動作湿度　25 ～ 80 %

次のページへつづく ➡

AC パワーアダプター

型名	AC-F21
電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz
定格出力	DC OUT 10.5 V、1.3 A（動作時）
許容動作温度	5 ～ 35 ℃
許容保存温度	− 20 ～＋ 60 ℃

付属品

18 ページをご覧ください。

別売りアクセサリー

アクティブスピーカーシステム SA-F21

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

言語コード一覧表

詳しくは 52、55、65 ページをご覧ください。
言語名表記は ISO639:1988（E/F）に準拠

コード	言語
1027	Afar
1028	Abkhazian
1032	Afrikaans
1039	Amharic
1044	Arabic
1045	Assamese
1051	Aymara
1052	Azerbaijani
1053	Bashkir
1057	Byelorussian
1059	Bulgarian
1060	Bihari
1061	Bislama
1066	Bengali; Bangla
1067	Tibetan
1070	Breton
1079	Catalan
1093	Corsican
1097	Czech
1103	Welsh
1105	Danish
1109	German
1130	Bhutani
1142	Greek
1144	English
1145	Esperanto
1149	Spanish
1150	Estonian
1151	Basque
1157	Persian
1165	Finnish
1166	Fiji
1171	Faroese
1174	French
1181	Frisian
1183	Irish
1186	Scots Gaelic
1194	Galician
1196	Guarani
1203	Gujarati
1209	Hausa
1217	Hindi
1226	Croatian
1229	Hungarian
1233	Armenian
1235	Interlingua
1239	Interlingue
1245	Inupiak
1248	Indonesian
1253	Icelandic
1254	Italian
1257	Hebrew
1261	Japanese
1269	Yiddish
1283	Javanese
1287	Georgian
1297	Kazakh
1298	Greenlandic
1299	Cambodian
1300	Kannada
1301	Korean
1305	Kashmiri
1307	Kurdish
1311	Kirghiz
1313	Latin
1326	Lingala
1327	Laothian
1332	Lithuanian
1334	Latvian; Lettish
1345	Malagasy
1347	Maori
1349	Macedonian
1350	Malayalam
1352	Mongolian
1353	Moldavian
1356	Marathi
1357	Malay
1358	Maltese
1363	Burmese
1365	Nauru
1369	Nepali
1376	Dutch
1379	Norwegian
1393	Occitan
1403	(Afan) Oromo
1408	Oriya
1417	Punjabi
1428	Polish
1435	Pashto; Pushto
1436	Portuguese
1463	Quechua
1481	Rhaeto-Romance
1482	Kirundi
1483	Romanian
1489	Russian
1491	Kinyarwanda
1495	Sanskrit
1498	Sindhi
1501	Sangho
1502	Serbo-Croatian
1503	Singhalese
1505	Slovak
1506	Slovenian
1507	Samoan
1508	Shona
1509	Somali
1511	Albanian
1512	Serbian
1513	Siswati
1514	Sesotho
1515	Sundanese
1516	Swedish
1517	Swahili
1521	Tamil
1525	Telugu
1527	Tajik
1528	Thai
1529	Tigrinya
1531	Turkmen
1532	Tagalog
1534	Setswana
1535	Tonga
1538	Turkish
1539	Tsonga
1540	Tatar
1543	Twi
1557	Ukrainian
1564	Urdu
1572	Uzbek
1581	Vietnamese
1587	Volapük
1613	Wolof
1632	Xhosa
1665	Yoruba
1684	Chinese
1697	Zulu
1703	無指定

設定画面項目一覧表

下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

言語設定（65ページ）

画面表示言語	日本語 ENGLISH
メニュー言語	日本語 英語 中国語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 スペイン語 ポルトガル語 オランダ語 デンマーク語 スウェーデン語 フィンランド語 ノルウェー語 ロシア語 その他 →
音声言語	オリジナル （その他の項目は「メニュー言語」と同じ）
字幕言語	日本語 音声連動 （その他の項目は「メニュー言語」と同じ）

画面設定（66ページ）

TV タイプ	16:9 4:3 レターボックス 4:3 パンスキャン
スクリーンセーバー	入 切
背景画面	ジャケットピクチャー グラフィックス 青 黒

視聴設定（67 ページ）

自動再生	切 タイマー デモ 1 デモ 2
表示窓の明るさ	明 暗 消 自動
一時停止モード	自動 フレーム
視聴年齢制限 →	
音声トラック自動選定モード	切 入

オーディオ設定（68 ページ）

オーディオ ATT	切 入		
オーディオ DRC	スタンダード テレビ ワイドレンジ		
ダウンミックス	ドルビーサラウンド ノーマル		
音声デジタル出力	入	ドルビーデジタル	ダウンミックス PCM ドルビーデジタル
		DTS	切 入
	切		

索引

五十音順

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット／数字順

保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは テクニカルインフォメーションセンターへ	
フリーダイヤル	0120-37-8154
受け付け時間	午前9時～午後5時（年末、年始、土日、祝日を除く毎日）

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

● ナビダイヤル……………… 0570-00-3311

（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311

● Fax ……………………………… 0466-31-2595

受付時間：

月～金
9:00～20:00

土・日・祝日
9:00～17:00

http://www.sony.co.jp/

Printed In Japan

この説明書は再生紙を使用しています。